

わが子のあゆみ



岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

2016.3 NO.442

春風号

第67巻5号

3

12年目を迎えた「スマイル宣言」人権集会

平成15年2月、生徒会執行部が中心となり「誰もが安心して学校生活を送ることができるように」と願って宣言されたスマイル宣言。その精神は、今年も人権集会の場でしっかり受け継がれました。

くじょうしりつぐんなんちゅうがっこう
郡上市立郡南中学校

●【学校の教育目標】

「磨く」
～正しく、強く、新しく～

がんばる子らの汗と笑顔と眼差しと

郡上市立郡南中学校



新入生への「校歌指導」

入学式への入場直前、式の心構えと校歌の指導を先輩（生徒会役員）が行いました。緊張と期待の瞬間でした。



命を守る訓練

1回目は、地震による火災を想定した訓練。どこの学校でも行われている見慣れた訓練風景ですが、「自分の命は自分で守る」ために全員ヘルメットを被ります。



PTA役員と生徒会役員の語る会

生徒からは、生徒会活動の報告と掃除道具や体育館トイレの洋式化など、現実的で具体的な要望があり、学習環境に対する意識の高さを感じました。



親子奉仕活動

夏休み明けに行われる体育祭に向け、親子で暑さと闘いながら一所懸命グラウンドの草取りに取り組みました。



頼りにされる中学生

いざという時、中学生ができる「近くの幼稚園児を避難所まで安全に誘導する」訓練を行いました。手をつないだり、抱っこしたり・・・などなど頼もしく見えました。



夏祭りボランティア

PTA役員や青少年育成推進員さんの協力を得て、中学生ボランティアが町の夏祭りに「ポップコーン・水風船・輪投げ」のバザー・体験コーナーを出店しました。地域の方々のたくさんの笑顔に出会えました。

わが子のあゆみ
2016.3 No.442 春風号
第67巻5号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ



岐阜市立且格小学校

【ぎふしりつしょかくしょうがっこう】
●住所 〒501-6133 岐阜市日置江1859番地1
●TEL (058)279-0883
●FAX (058)279-0884
●メール gisyo36@shokaku-e.gifu-gif.ed.jp
●児童数 277名



▲校舎

校歌

且格小学校校歌

作詞 永井弘道
作曲 浅野 誠

一、稲葉の山の 緑濃く
歴史も古き 学舎に
文化の泉 手にとりて
明るき知恵を くみとらん
たのし且格の 若杉われら

二、清き長良に ゆあみして
伊吹おろしを 歌と聞き
強きからだを きたえつつ
直く正しく 生きぬかん
たのし且格の 若竹われら

三、濃尾平野の 一角に
拓きしおやを しのごつこつ
心と心 結びあい
理想の丘に とびたたん
たのし且格の 若鳥われら



▲且格コミュニティあいさつキャラクター

やさしく かしく たくましく・豊かな心をもつ子・考えて創り出す子・強くたくましい子

◎願う学校の姿 「心の喜びのあふれる学校」

沿革・地域の自然や風土

且格小学校の校名は、明治六年初代校長青木東山が、論語の一節「有恥且格（恥ありて、かつただし）」から命名した。「人を導くのに規則や命令でいうことをきかせようともし、もし従わない時は、罰をもってのぞむならば、罰から逃れればよい」と思い、悪いことをしても少しも恥ずかしいとは思わない。ところが、徳をもって導き、礼をもって接すれば、恥ずかしいと思つて心から正しくなる。」孔子「為政編」より。



本校は、岐阜市南西部に位置し、長良川や田畑に囲まれた恵まれた自然環境の中にある。三世代同居の家庭も多く存在し、自治会・公民館・スポーツ少年団・消防団・子育てサークルな



▲ここに笑顔満開!朝のあいさつ活動

「地域社会人」を育む 「且格」ミニミニ・スクール

平成二十六年度より、学校運営協議会が設立された。これまでの活動を共有化・組織化し、



れ合う中で、読書好きの児童を育成しながら、豊かな感性、想像力・表現力を育てている。

④今年度は、特にあいさつ活動、よき見つけに重点的に取り組んでいる。

だれもが笑顔で学校生活を送ることができるよう六年生が率先して朝玄関に立ち、目と目を合わせて元気にあいさつをしている。さらに、児童会実行委員会が、あいさつ名人を見つけて若鳥集會にて紹介しよさを認め合い広げる活動を続けている。

ど、地域をフィールドとし、それぞれ盛んに活動している。こういった温かい地域の方々から学校教育活動を大きく支えていただいている。

たのしむ 且格っ子じまん

本校では、教育目標を具現化するために、児童にわかりやすい形で表現した「たのしむわれら且格っ子じまん」を学校教育活動の柱に据え取り組んでいる。自分達の活動に自信を持ち、さらに活動の輪を広げ、自己肯定感・自己有用感をもたせたいと願っている。

①若鳥活動～児童集會～
若鳥集會は、自分たちの生活課題について、児童会の各委員



▲環境美化委員会～大掃除キャンペーン～

且格コミュニティ・スクールとして、地域ぐるみで子ども達を育てている。

①地域に広がる「ここにこあいさつ」
今年度且格コミュニティあいさつ活動キャラクター「ここにこことびよった」が学校運営協議会・PTAの協力により誕生した。

このキャラクターをコミュニティシャツ・あいさつのぼり旗にデザインし、学校・地域の活動で活用し、ここにこあいさつを広げている。

②安心・安全パトロール

「且格の子ども達の安全は、PTA、地域が守る」を合言葉に、PTA会員全員が、車に乗って毎日交代で下校時の通学路パトロールを行っている。また地域の方も、危険個所に立つてくださったたり、朝夕青パトで見守り活動を行ったりしてくださっている。「いつてらっしゃい」「気を付けてね」の温かい言葉かけによって、安心して登下校をしている。

③地域で学ぶ・地域とともに

全校児童が図工の時間や家で、希望や願いを書いた灯籠を作って会場に飾ったり、七月の土曜授業の日に地域の名人さんに盆踊りを教えていただいたり

会からの取組を発表する集會である。「学校を美しくしよう」「いろいろな分類の本をたくさん読もう」児童が主体的に集會を計画・運営する力や自己表現力を養うとともに、仲間の発表の様子や姿から、互いの理解を深めることをねらっている。

②若竹活動～全校縦割り活動～
若竹活動は、全校で縦割りグループを編成し、六年生が中心となり、異学年が楽しめるような集団遊び、ボールや遊具を使った遊び等、様々な遊びの計画を立てて活動する。一学期「且格っ子遊園地」（一年生を迎える会）二学期「且格花咲王国」（交代で遊びコーナー担当）の行事を通して、また月二回遊びを通してふれあい、関わり合つて、社会性を養っている。

③若杉活動～全校一斉の読書や読み聞かせを中心に行う読書活動～
読書週間「若杉まつり」には、家族読書、地域・保護者ボランティア・全職員による読み聞かせを行っている。さらに、三十年以上の伝統を引き継いでいる「手作り絵本」を毎年、全児童一人一冊制作している。

この若杉活動では、「心の教育」の一環として、自分と向き合い、登場人物や本の世界と触

して、夏休みの地域の一大イベント灯籠祭りをみんなで盛り上げている。

また、東南海地震・長良川水害を想定した地域防災訓練が、自治会を中心に毎年実施されている。災害に備え地域の諸団体が力を結集し真剣に取り組んでいて、多くの児童も保護者と一



▲只今パトロール中



▲寒い季節に避難所体験



▲笑顔がいっぱい1年生を迎える会



▲地域の方による読み聞かせ



▲灯籠に願いを込めて

緒に積極的に参加している。さらに、三年前よりPTA・学校が連携し避難所開設訓練を実施している。避難所である体育館で、避難者名簿作成、パーテーション設置、我が家の避難グッズ交流、非常食の試食などに、積極的に取り組んでいる。

山県市立梅原小学校

●住所 〒501-2115 山県市梅原1543番地
 ●TEL (0581)22-1068
 ●FAX (0581)27-3733
 ●メール umeharasyo@yamagata-gifu.ed.jp
 ●URL http://www.ip.mirai.ne.jp/~umeharasyo/
 ●児童数 67名(男子32名・女子35名 H27.11.1現在)



▲校舎 東門より



梅原小学校校歌

作詞 校歌制定委員
 補作 大澤一佐志
 作曲 上野忠平

一、山なみは 緑に映えて
 わが里の 土は豊かに
 ここに集う
 ぼくら わたしたち
 ああ 梅原 梅原小学校

二、校章の 梅は気高く
 清らかに いのち伸びゆく
 ここに学ぶ
 ぼくら わたしたち
 ああ 梅原 梅原小学校

三、峰遠く 雲ははるか
 すこやかな 望みはてなし
 ここにはばたく
 ぼくら わたしたち
 ああ 梅原 梅原小学校



▲フェスタ 昔の話



▲フェスタ 豚汁

豊かな心で たくましく生きる 梅原の子

【学び】進んで学ぶ 【見つめ】心を見つめる 【きたえ】心や体をきたえる

本校は、明治五年に国定寺を仮校舎として開校し、昭和三十年の町村合併によって梅原小学校となりました。開校時は、児童数七十名余りでしたが、昭和二十四年には二六〇名となり、その後は百数十名で推移し、平成に入ると百名程度の規模となりました。

校舎は、山県市の南西部に位置し、自然環境に恵まれていますが、校区を通る県道は交通量が多く、児童の安全確保を図るため、保護者や地域と連携して指導にあたっています。

保護者や地域の方々の教育に対する関心は高く、学校・地域の行事やPTA活動には多数の参加者があり、学校・家庭・地域が強い連帯感で結ばれています。教科や総合的な学習の時間においても、学校のために進んで動いてくださる方が多く、地域に支えられた教育活動を展開しています。

沿革地域の自然や風土

梅原夢プロジェクト

子どもたちには、どの子にも限らない可能性があり、豊かな人生が待っています。その可能性の芽を広げ、豊かな人生を送



るための力や心を育てていくのが、私たち教師も含めて大人の役割と考えています。そこで、子どもたちが夢をもち、自分の可能性を広げて様々なことに挑戦しようとする態度を育てる取組の一つとして、自分の夢を表現する場をもちたいと考えました。

四月の始めに、「ぼく・わたしの夢シート」を配付し、自分の夢を書きました。そのシートには、絵や顔写真も入っています。この夢について、学級活動で交流し、お互いに一歩でも近付けるよう励まし合っています。また、自分の夢について校長先生と語る会をもち、さらに自分の夢が膨らんでいくように



▲夢プロジェクト シート記入



▲夢の階段 掲示



▲夢プロジェクト 掲示

地域の先生と共に学ぶ 学校づくり

①地域の先生の指導による栽培活動

学級園、地域の方から借用している農地を活用して、生活科・総合的な学習の時間で栽培活動を進めています。様々な野菜の栽培・収穫を通して、自然の恵みに対する感謝の気持ちを育むとともに、地域で生きる人たちの努力や生き方について学んでいます。

②一年生

学級園に大根の種をまき、収穫した大根で十二月におでんパーティーを開催しています。

③二年生

学級園に夏野菜（ミニトマト、きゅうり、なす、とうもろ



こし、じゃがいも）、さつまいもの苗を植え、毎日成長の様子を観察しています。また、秋にはもちなの種をまき、一月に雑煮パーティーを開催しています。

④三年生

地域の方の農地を借用し、さつまいもの苗を植え、収穫したさつまいもで一月にもパーティーを開催しています。

⑤四年生

学級園、借用地に大豆・小豆の種をまき、収穫した大豆できな粉作り、豆腐作り、味噌作り、収穫した小豆で小豆ぼたつとう作りを行います。JA女性部の方々による指導で、とても美味しい豆腐・味噌ができました。この味噌は、毎年十一月に



▲3年 さつまいも苗植え

うに聞いてみました。

〔児童の感想〕

昔の話を聞いて、昔と今の違いや、昔の大変さが分かりました。これからは、今の生活に感謝して生活したいです。

〔保護者の感想〕

お年寄りの世代が交代していく中で、最も厳しい時代を生き抜いた方々からのお話は、子どもも大人も参考になります。お年寄りとの対話を通じて、独特な表現・方言・テンポについても学んでほしいです。

その後、みんなでレクリエーションを楽しみ、JA女性部の方に作っていただいた豚汁をおいしくいただきました。

交通少年団自転車安全大会 三度目の県大会優勝



七月二十八日に行われた岐阜県交通少年団自転車安全大会で、三回目の優勝を飾ることができました。児童数の減少から、毎年参加することは難しい状況ですが、今年度は六年生児童四人が参加しました。山県警察署員の方、市役所職員の方の指導を受け、炎天下の運動場



▲県大会 優勝



▲自転車大会 練習

高山市立南小学校

●住所 〒506-0054 岐阜県高山市岡本町1-18
 ●TEL (0577)32-0013
 ●FAX (0577)37-0613
 ●メール minami@edu.city.takayama.gifu.jp
 ●児童数 375名



◀南小学校全景

校歌

南小学校校歌

作詞 佐佐木 信綱
 作曲 弘田 竜太郎

- 一、その名も匂う 櫻の前に
われらの徳を 磨くべく
學びいそしむ わが友よ
幸あるわれら 嬉しきわれら
- 二、その名も清き わが宮川は
われらの胸に つたうなり
清き思いを やしなへと
いざいざ友よ 學ばん共に
- 三、東と西の 境に高く
並み立つ山は 教うなり
高き心を やしなへと
つとめむわれら はげまむわれら



▲あたたかい心の花をさかせよう活動



▲ひびき合い集会

登下校だけでなく、児童の様子にも気を遣いながら声をかけてください。地域と子どもたちを結ぶ南小学校の大切な活動です。

もうひとつ、全保護者が順番に児童と一緒に帰りながら、地域を見守るSST活動も行っています。各家庭一年間に二回の活動ですが、全家庭が協力するというこの方法は、高山市の他の学校の見本にもなりました。



▲見守り隊活動

示板に貼られています。皆さんのあたたかい言葉が集まり全校にやさしさが広がっています。

②ひびき合い集会「あたたかい心の花をさかせよう」
 十二月の人権週間を受けて、十二月四日に児童会主催の「ひびき合い集会」を行いました。自分も仲間も大切にするため、各クラスが「ひびき合い宣言」を行いました。南小学校五つの自慢の中から、自分と仲間を大切にすることにつながる活動を決め、代表の児童が全校の前で堂々と宣言しました。「次の人のためのスリッパそろえ」や

「あたたかい気持ちになれるあいさつ」「気持ちよくなるよつこも校舎もびっかびか」など、日頃から大切にしていることが、仲間を大切にすることにつながることを確認できました。

学校の 地域・保護者の協力
 ①見守り隊活動・保護者SST（スクール・サポート・チーム）活動

南小学校では、一〇〇人以上の地域の方が、ボランティアとして毎日それぞれの町内会の見守り隊活動をしてくださっています。この活動は十年以上の歴史があります。安全な登下校だけでなく、児童の様子にも気を遣いながら声をかけてくださいます。地域と子どもたちを結ぶ南小学校の大切な活動です。

②ありがとう集会
 毎年二月に、一年間見守り活動や授業、他の学校ではPTAにあたる育友会で、お世話になった地域の方や保護者総勢一〇〇余名をお招きして感謝の気持ちを伝える「ありがとう集会」を行っています。児童が感謝の気持ちを言葉や歌で伝えるだけでなく、お客さまからも言葉をいただくことで、地域や保護者の皆様にどれほど大切に思われているのかわかることのできる貴重な機会となっています。



▲ありがとう集会

最新のアンケート結果からは、「地域の人に進んであいさつできる」と回答した児童が九〇%、「自分には良いところがあると思う」が八六・三%、「将来の夢がある」が九五・九%、「人の役に立つ人間になりたいと思う」が九五・八%と、子どもたちは「自己有用感」を大きく高めています。今後とも、地域にある「学舎」として「意志ある学び」を進めて参りたいと存じます。

学校の教育目標 あたたかい心の花を咲かせ 自分づくりをすすめる子

学校の教育目標

南小学校の教育目標は、「あたたかい心の花を咲かせ 自分づくりをすすめる子」です。この目標を達成するために、「主体性をはぐくむ（見届け・価値付け・意味指導）」を学校課題とし、三つの柱「心、体、知」を立て様々な教育活動に取り組んでいます。

学校の沿革

南小学校は、高山駅の西側にあり、校区は高山陣屋を含む駅の東側の商業地区と、駅の西側の住宅地区に広がっています。明治三十七年に高山尋常高等小学校的第三校の校舎として校舎にも歌われている「桜の前（現在の名田町）」の地に女子学校として創立されました。二度の校名変更を経て、昭和二十二年四月に高山市立南小学校が誕生しました。

昭和三十八年に現在の岡本町に移転した後、平成十五年、それまでの鉄筋の校舎とは打って変わって、ぬくもりのある現在の木造校舎に変わりました。地域や保護者の皆様の支援により平成二十六年には開校百周年を迎え、現在に至っています。

○心 「あいさつ」で広がる感謝の心

○体 「小さな我慢」の積み重ねで強くなる自立の心と体

○知 「わたしがやります」と言える学びの主体と好奇心



五つの自慢

全校であたたかい心の花を咲かせ自分づくりを進めるために、五つのことが自慢になるよう児童会を中心に活動を進めています。

- ①元氣なあいさつ
 - ②もくもく掃除
 - ③くつスリッパそろえ
 - ④聞く話す姿勢（くし）
 - ⑤元氣な歌声
- ここでは、二つの活動について紹介します。

①「あかるく、いつでもだれにでも、さきに、つづけて あいさつしよう」を目標に、児童会で朝のあいさつ活動「シーマン活動」を行っています。児童玄関や教室で、登校してきた友だちに朝の挨拶をします。

たくさん児童が自主的に参加しているので、朝の児童玄関は、とても元氣な声が響いています。現在は、「おはよう」を言うだけでなく、名前をつけて

あたたかい心の花

教育目標にある、「あたたかい心の花を咲かせる活動」にも取り組んでいます。

①あたたかい言葉かけ運動
 各学級で取り組んでいた「いいこと見つけ」を、九月からは全校での「あたたかい言葉かけ運動」として行っています。

「仲間っていいな」を合言葉に、友だちのよいところややってもらって嬉しかったことを紙に書いてポストに入れます。生活委員会により中央ホールの掲



▲朝の挨拶活動



▲みてみて発言



【ときりつせりょうちゅうがっこう】

土岐市立西陵中学校

●住所 〒509-5301 土岐市妻木町1513番地の1
●TEL (0572)57-7195
●FAX (0572)57-7977
●メール seiryu@ed.city.toki.gifu.jp
●生徒数 373名



校舎全景

校歌

西陵中学校校歌

作詞 花村 奨
作曲 川島 博

一、山なみめぐる 西陵に
白垂そびえる わが母校
こころを知恵を 磨きあい
伸びゆくわれら 希望あり

二、城山高く 水清く
みどりあかるい わが郷土
からだをきたえ 助けあい
土岐の子われら 理想あり

三、むらさきゆかし 花きぎょう
歴史かがやく わが校旗
かざして進む 道ひろく
若人われら 未来あり



▲町民集会での受付



▲ラジオ体操での小学生へのスタンプ押し

学校の教育目標

学校の教育目標は「自立自尊」です。自他を互いに尊び、自分たちで自分たちの生活をよくしていく力(学力・かかわり合う力・自治の力)を育てることを大切にしています。今年度の合言葉「協同」(心と力をあわせる)を通して、学力と人間関係づくりの同時達成を目指しています。

沿革 地域の自然や風土

本校は妻木分校と下石分校との合併により、昭和三十五年九月三十日「西陵中学校」として創立されました。

土岐市の中西部に位置し、妻木城址や流鏑馬で有名な八幡神社などが存在し、町の歴史を誇りとしている妻木町と、地場産業である陶磁器産業を活性化させるために町おこしを積極的に行っている下石町の二地区を校区にもっています。

学校の教育目標 自立自尊

家庭環境をみると、両地区とも三世同居家庭が多くみられます。両親共働きでも、祖父母が常に家にいて子どもを見守っている家庭が多くあります。このような地域的な特性をもっている本校の生徒は、人懐っこく、素直で明るい生徒が多いです。

本校では、このような地域の実態を踏まえ、地域の夏祭りや町民運動会等のボランティアへの参画など、地域とのかかわり・協同を大切にした教育活動を推し進めています。



学校文化としての 地域ボランティア

本校では、地域の皆様との連携のもと、生徒に地域ボランティア活動への参加を促しています。今年度は次のような活動に参加しました。

- ・しるやま公民館創立十周年記念ライブ(司会・受付)
- ・下石町花いっぱい運動(花壇の整備・花植え)
- ・妻木町青少年育成町民会議(主張発表・吹奏楽部演奏・司会・受付・会場設営等)
- ・下石町青少年育成町民集会(主張発表・吹奏楽部演奏・司会・受付・会場設営等)
- ・妻木町ラジオ体操(体操の見本・スタンプ押し)
- ・下石町夏祭り(太鼓演奏)
- ・妻木町ふれあい夏祭り(模擬店サポート・ゴミ収集・見回り・会場設営等)
- ・火縄銃演舞・よろい武者行列(受付・太鼓・器具運搬)
- ・妻木町大運動会(放送 器具等)

ボランティアに参加した生徒の感想文

花いっぱいボランティアから学んだこと

私は、花いっぱい運動のボランティアを行い、それを通して学んだことがあります。まず、地域のために働くということはいことです。自分の住んでいる地域に花を植え、その場所が華やかになったことで、やってよかったと思えました。

次に人に感謝されることのうれしさを感じることができました。ボランティアをした後、地域のみなさんから感謝の言葉をいただきました。その言葉を聞いた時わたしはとてもうれしくなり、気持ちよくなりました。

自分達で植えた花壇を見かけると、つい目がそっちら行ってしまいます。他の人も見てくれているとうれしいです。私はこのボランティアに参加してよかったと心から思いました。

地域ボランティア活動への参加は、生徒の中では中学生としての生活の一部となっており、その高いボランティアへの意識は、本校の学校文化となりつつあります。昨年度は、この取り

地域と協同して学ぶ
～マイ茶碗で白米を味わう～
一年生の総合学習において、町の歴史や地場産業である陶磁器産業について学習しています。その一環として、マイ茶碗



▲マイ茶碗でご飯を食べる



▲H26ふれあいコンサート:スカイプで南三陸町とつなぐ

地域と心をつなぐ ふれあいコンサート

毎年、十一月初旬にPTA主催「ふれあいコンサート」を実施しています。昨年度は、「東



妻木町文化祭(司会・受付・ゴミ収集・吹奏楽部演奏・会場係等)
下石どえらあええ陶器祭り(遊び広場サポート)

この取り組みは、「社会貢献できる人づくり」を目標に、十年前より始まりました。近年では、生徒の学校生活に深く浸透し、いろいろな生徒がボランティアに参加します。休み時間の廊下では時々こんな会話が聞かれます。

「ねえ、今度の妻木町の○○ボランティア行く?」
「僕は、前は部活で行けなかったら、今回は行きたいと思っ



▲町民集会での吹奏楽部演奏

てる。」
「じゃあ、一緒に行こうか。」
生徒のボランティアに参加しようとする動機は様々です。誰かの役に立ちたい。みんなが行っているから何となく。おもしろそうだから…。動機は様々でも、実際にボランティアに参加し活動することで、人の役に立つことの喜び、精一杯取り組むことの充実感、年輩の方から小さな子までいろいろな人との触れ合いなど、通常の学校生活だけでは、味わうことのできない貴重な経験をします。次に、ボランティアに参加した生徒の感想を紹介いたします。



▲地域行事でのテント設営

わが子のあゆみ

2016.3 No.442 春風号

表紙 郡上市立郡南中学校

学校のためもの 1

岐阜市立且格小学校/山県市立梅原小学校/高山市立南小学校/土岐市立西陵中学校

わが家の宝物 関市立桜ヶ丘小学校PTA会長 深川征也 9

特集・東日本大震災被災地中学校交流2015

「いざというときに 力になるのが中学生」 11

福岡中・田中祐次/福岡中・田口大翔/福岡中・須永若菜/福岡中・市川舞桜/加納中・小夏珠々花
加納中・大澤早紀/坂祝中・田垣賢人/坂祝中・浮中ひより/坂祝中・天田 葵/坂祝中・三品明日香
陽南中・丸井梨央佳/陽南中・肥後好志乃

家庭教育応援団! 20 中津川市立坂下小学校 23

下呂市立尾崎小学校

シリーズ「療育」 25 岐阜県立揖斐特別支援学校 25

ボランティアニュース [vol.9] 27

岐阜市立茜部小学校PTA
岐阜市長森南小学校PTA
岐阜市立七郷小学校PTA
岐阜市立本荘小学校PTA

お弁当の日 羽島市立正木小学校PTA 29

保健室ノート 高山市立国府中学校 田尻圭美 31

私の先生 20 下呂市立下呂小学校教頭 矢島 明 33

子育て半世紀 可児市立広見小学校校長 柘植英次 35

子の思い・親の願い・教育の窓 37

子の思い
多治見市立滝呂小学校 2年 中山ゆい
可児市立桜ヶ丘小学校 6年 河村日菜子
揖斐川町立谷汲中学校 3年 阿藤晴香

親の願い
岐南町立西小学校PTA 会長 山田英司
中津川市立神坂学校PTA 会長 尾関 寿

教育の窓
下呂市立尾崎小学校 校長 岩嶋温子
岐阜特別支援学校 教諭 平山亜矢子

親子ではてな 44
インフォメーション 45
お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 46
春のそぼろ寿司

ふるさとの伝承 47

白川町立佐見小学校

きらり!キッズ! 49

瑞穂市立西小学校

夢中!熱中!我が部活 51

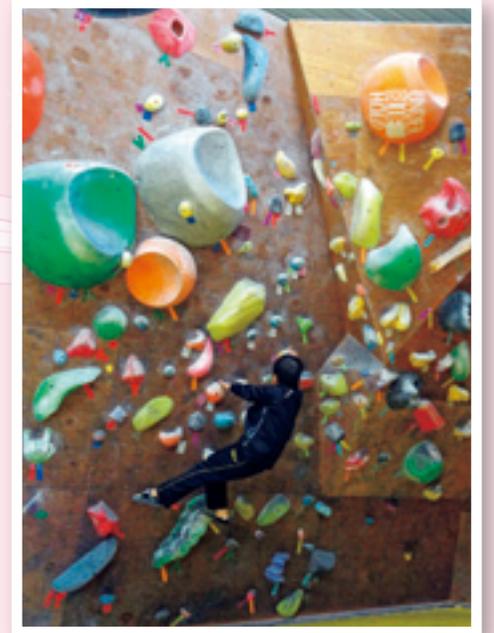
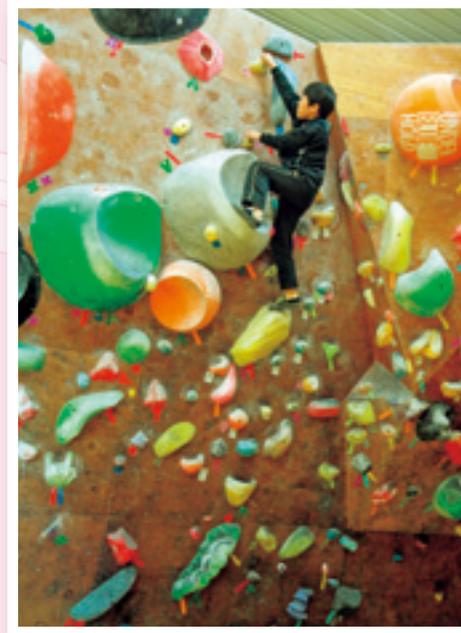
垂井町立不破中学校

私たちのPTA 53

多治見市立精華小学校PTA

わが家の宝物

関市立桜ヶ丘小学校PTA会長
深川 征也



わが家の宝物は、 クライミングシューズです。

週末になると、息子と一緒にクライミングを楽しんでいます。
二〇二〇年に開催される東京オリンピックで新たな種目として追加されたことをご存知の方も多いと思いますが、クライミングは決められたホールドのみを使って壁を登っていくスポーツです。
一緒に始めたころ二年生だった息子も、現在四年生。
肉体的にも技術的にもどんどん成長して、色々な課題を登ることができるようになり喜ぶ息子の姿を見守りながら、私もクライミングを楽しんでいます。

今は身長差もあることから、私の方が難易度の高い課題を登ることが出来ていますが、いつか追い越される日を楽しみに、息子の成長を見守っていきたいと思います。

「いざというときに 力になるのが中学生」

2011年(平成13年)午後2時46分、宮城県沖の太平洋の海底でマグニチュード9という地震が発生しました。この地震によって、場所によっては高さ10m以上の巨大な津波が押し寄せ、東北から関東の太平洋沿岸部に壊滅的な被害が発生しました。

震災から4年5ヶ月が経た昨年8月、岐阜県の中学生12名が被災地・宮城県石巻市立門脇中学校を尋ねました。この交流事業は岐阜県PTA連合会が募集し、「東日本大震災被災地支援基金」を活用して行ったものです。参加した12名からの報告です。



被災地から学んだこと

中津川市立福岡中学校
前期生徒会長 田中 祐次

僕が始めに立った場所は、河川と草原が広がる自然豊かな所でした。しかし、四年前まではそこが活気ある街だったという過酷な事実を、最初に知ることになりました。

僕は夏休みに、被災地中学校との交流事業で東日本大震災の被災地へ行きました。最近テレビに映ることも少ない被災地の現状を知りたいという思いで訪ねました。実際に街が津波で流され、人々の幸せが一瞬で奪われた場を目の当たりにし声も出ませんでした。それからの三日間で僕は多くのことを学びました。

一日目に学んだことは、震災の恐ろしさです。この日は、大川小学校と女川病院を訪ねました。どちらも津波の被害を受け、大川小学校の校舎は全壊し、全児童一〇八人中、死者が七十八人。女川病院は、死者なしで、床上浸水でした。驚いたことに、女川病院は海から数百メートルの

位置にあるのに対し、大川小学校は海から数キロメートルも離れていたことです。この被害の差は、高さでした。女川病院は二十mほどの高台にあったのです。震災以来人々は、「遠くより、高くへ」を教訓としていました。僕たちの住む中津川市には津波の被害はありませんが、想定より被害を大きく見積もり、素早く対処することが命を救うことにつながるのだと知りました。

二日目に学んだことは、事前の準備の大切さです。この日は、門脇中学校の生徒の皆さんと交流しました。そこで震災直後の多くの苦勞を知りました。校舎で知らない人と過ごし、食料もろくになく、ずっと苦しい日々が続いていたそうです。救援物資が届き、そのおかげで少しずつ活気が戻っていったそうです。それにもかかわらず、門脇中学校の生徒さんは私たちに、「もし震災にあっても物資に期待をしてはいけない」と言いました。それは、救援物資が届くまでの間の水や食料は自分で用意しなければいけなくなるかもしれないからだそうです。今の中津川

被災地の現状から 中学生ができること

中津川市立福岡中学校
前期生徒会執行委員 田口 大翔

市は、震災後の対処がどこまでできるでしょうか。食料難という二次被害を出さないためにも事前の準備が必要です。三日目に学んだことは、「いざというときに力になるのが中学生」ということです。これは語り部さんの話の中でいただいた言葉です。普段、大人は働きに出ていくからとのことでした。現在、中津川市の中学校、各地域では積極的な中学生の防災事業への参加がありません。そのためもって力を入れる必要があると思います。

中津川市に帰ってきて学んだことから、今の課題を見出し、防災訓練での中学生の参加という新たな取り組みなどを考えました。それを中津川市内の生徒会役員が集まる「生徒会サミット」で強く訴えました。

この交流事業によって得られたものは計り知れず、一生の財産になると思います。まだ、学んだことを生かしての活動をしていないので、被災地の方々のためにも行動を起こしていきたいです。

僕が住んでいる中津川市は海と面していないので、地震が起こっても津波は襲ってきません。地震後に起こるとしたら、土砂崩れだと思います。それに対し、宮城県は海と面していて、地震が起きると、震度によっては津波が襲ってきます。

今回僕は、東日本大震災の被災地にあった宮城県石巻市の被災地訪問に参加しました。この事業に参加し、被災地の現状を視察しました。テレビやインターネットでしか見たことのない風景を現地へ行って自分の目で見ることでできたのは、とても貴重なことだったと思います。そして、この事業を通じて、学んだことと感じたことがあります。

一つ目は、門脇中学校との交流です。この交流では、「家族、友達との信頼関係の大切さ」を学びました。この考え方は、避難

所にいるときに必要だと感じました。門脇中学校の生徒の人から、「自分の住んでいる地域をよく知っておくといいよ」と言われました。これは、避難するとき、どこに何があるのか、避難するの何分ぐらいかかるのかなどを把握しておくことで、津波などに巻き込まれずに助かる可能性が高くなるからです。一人暮らしの方がどこに住んでいるかということも知っておくだけで、一人でも多くの命を救うことができるのだと思いました。このように命を救うために、私たちが感じました。

二つ目は、語り部さんの話の中であった「いざというときに頼りになるのは中学生だ」という言葉です。大人は普段、働きに出ていて、自宅にはいません。もし、地震が起こったときに一番動くことができるのは、中学生しかいないのです。その言葉を聞いたとき、僕たち中学生が地域から頼られているんだと思え、責任感も感じました。そして僕たちはこの事業に参加して学んだことを、「中津川市

生徒会サミット」で、市内の中学校に発表しました。このサミットでは主に、学んだ言葉「いざというときに頼りになるのは中学生だ」や、学校や地域で行われる防災訓練や避難訓練への参加について発表しました。

その後、福岡中学校区では八月三十日に、各地域で防災訓練が行われ、たくさんの中学生在が参加し、炊き出し訓練などの手伝いをしました。しかし、訓練だからといって、本番を想定して取り組んでいないと思います。自分の命を守るためにも一つの訓練を大切に真剣に行うという意識を高めてほしいと思います。また、避難経路の確認など、「どうせこんなことをやって知れませんが、このような小さなことが地震発生時に役立つことを学びました。今はめんどくさくても、地震発生後には必ずやってよかったと思えます。

宮城県石巻市は現在、一日も早い復興を願って、「がんばろう石巻」という言葉を街のいたる所に看板として立てたり書いてお互いに励ましあって

自分と仲間の大切さ

岐阜市立加納中学校

前期生徒会報道局長 小夏 珠々花

私は東日本大震災被災地中学校との交流事業に参加して多くのことを学びました。特に印象に残ったのは、震災当時、小学校の教頭先生をされていた佐藤茂久さんの話です。当時の学校の様子や避難所での生活の様子を聞きました。私は今でもその言葉の一つ一つが心に残っています。ぐちゃぐちゃになった教室、亀裂の入った校庭、流されてくる人、真っ暗な中での生活、安心できる学校と安心できる生活が姿を変えました。避難している方、家族に会えない方がどんな思いで毎日過ごしていただろうと考えると心が痛めつけられます。

話の中で周りの人を大切に思うことや、今日という日を大切に生きようとする思いを感じました。実際に被災された方々は本当につらい日々を過ごされ、私たちは同じ思いをすることはできないけれど、命をもっと大切に

にしなければいけないと強く思いました。生きるということには当たり前ではない。一日一日が奇跡でかけがえのないものだと感じました。

私たちは全校には放送で、三年生には集会の場で今の石巻市の状況、見たことや聞いたこと、そして感じたことを写真とともに伝えました。特に三年生は一人一人が真剣な表情で聞いてくれて、命の大切さというものを全員で考えることができました。また、三月十一日の東日本大震災を忘れないでほしいということも伝えました。もう四年半も経ちますがまだ復興しきったとはいえません。この震災を一人一人が忘れないことがこれから復興していくための第一歩だと私は思います。

自分や仲間の命について全校で今一度見つめることができました。これは日常生活ではあいさつを大切にすることにつながると考えます。すれ違った仲間にあいさつをする、このことにより思いや優しさが伝わり、自分も仲間も心があたたかくなりま

たかさが広がり一人一人が安心して過ごせ、一人一人を大切にできると思っています。だからあいさつを活発にし、自分や仲間を大切に



▶震災後も咲き続けていたひまわりの花

人と人のつながり

岐阜市立加納中学校

前期生徒会報道局長 大澤 早紀

私は今回の交流事業を通して命の大切さはもちろん、家族や友だち、地域の方々を支え合い互いを思いやることの大切さを強く感じました。そして、そう感じたのは今回の交流で当時の様子や体験したこと、感じたことなどを私たちに伝えてくれた生徒会長の阿部さんの話を聞いて

たからです。

阿部さんは、震災当日風邪で学校を休みました。午後二時四十分、突然襲った激しい揺れにおびえながら、家族と一緒に避難場所である学校に行きました。その後、「ゴゴゴゴ」という大きな音とともに町をどんどのみ込んでいく津波を目にしました。そこにいた人たちは必死の思いで裏山へ逃げました。小さい子どもやお年寄りの方も多くいたその場で、多くの命を救ったのは男性でした。自分の命よりも人の命を守ろうとする姿は、不安でいっぱいだったみんなの気持ちに小さな希望や安心を与えました。このような助け合いが生まれた理由は普段から石巻市では地域のつながりが深かったからこそだと阿部さんは話していました。そして震災から数か月後、今まで会えなかった仲間との再会や多くの人との別れを経て新しい施設での学校生活が始まりました。なかなか立ち直れずにいるとき、支えになるのはやはりいつもそばにいる家族や仲間であったと聞きました。特に仲間との再会が忘れ

られない大切な瞬間であったそうです。

私はこの話を聞いて、今回の大震災は本当に多くの人を悲しい思いにさせる出来事だったと思います。そして、震災が人と人とのつながりについても一度考えさせるきっかけになったと思います。

今回の交流後、私は仲間や家族に対する思いが少し変わりました。それは今という限りある時間に仲間や家族と過ごせることが大変貴重であるということです。日々の生活は決して当たり前ではありません。

今、私の学級では文化集会に向けて合唱の取組みをしています。文芸部員の人は合唱をもっとよくしようとするには厳しいことを言います。私はそんな厳しい言葉を言ってくれる仲間も本音で言い合えるこの学級も大好きです。こうやって互いに一生懸命に声をかけ合いながら、同じ思いになったり、同じ目標を目指したりすることに喜びを感じられるようになりました。そして、卒業をしてもいろいろなことがあるだろうけれど、そんなとき

も周りの仲間と声をかけ合いながら進んでいきたいし、そういう仲間との関わり喜びを感じられるような気がします。



▶賑やかで活気溢れていた七夕祭り

大切なこと

坂祝町立坂祝中学校

生徒会長 田垣 賢人

約五年前、多くの命を奪い、たくさんの方々が被害を出したあの未曾有の大震災。その震災が起こった場所に「東日本大震災被災地中学校との交流事業」として行かせていただくことができました。この交流事業に参加して感じたことや学んだことが二つあります。

一つ目は、自分たちの当たり前がどれだけ幸せなことかとい

うことです。被災地の中学校との交流として、門脇中学校の生徒会の皆さんと交流したときでした。「水がなく、毎日同じ食べ物を食べなくてははいけなくなりました。」という話がありました。中には、家も全壊してしまったりという人もいました。自分たちが毎日暮らしている中で、当たり前のようにあったものがなくなったりと、想像するとすごく恐怖を感じました。同時に、今ある日常を大切にしようと思うようになりました。

二つ目は、準備をすることの重要性です。門脇中学校の皆さんとの交流の際に、水の準備や寒さ対応のために毛布が必要だったと聞きました。震災が起こり、避難しなければならぬとき、必要な物がなくてはなりません。準備が大切だと思っても、油断などでできなかった私にとって、この話を聞いてすごく危機感を感じました。

これらのことを今回の交流事業で感じたり学んだりしました。これを受け、学校では全校が集まる集会の場で、私たちが体験してきたこと、そして感じたこ

とや学んだことを発表しました。崩れ落ちた校舎、今も復興中の街、数々の体験や目にしたことを発表し、全校で現在の被災地の様子や、今自分たちにできることは何かを再確認しました。

こうした発表により、その後の活動に変化が見られました。まず、給食に対する思いが変化しました。それは、給食を配分する人が残さず配りきって、無駄にしないという思いで配膳をしています。さらには、生徒会の活動として、被災地の学校に義援金を送るために行っている「アルミ缶回収」では、回収物の数がかなり増えました。アルミ缶や牛乳パックをたくさん持ってきてくれるようになり、発表を受けてくれた生徒が何かを感じ取ることができたのだと思います。

今後の課題としては、命を守る訓練に加えて、普段の生活でもいつ地震が起こっても大丈夫なように行動をすることです。例えば、クラスで移動するときにするさいと、もしも緊急放送が入っても聞こえませんか。地震が起こっても指示を聞くことができないと思います。だから、普段から



放送が入ったら、最後まで聞くようにしていけば、いざというときに指示を聞き、行動することができそうです。

このように、今回の交流事業に参加したことで、全校生徒が改めて地震が起こったときのことを考えることができました。今後の課題も見つけることができましたので、本当によい体験となりました。

生きるいっしょ

坂祝町立坂祝中学校
生徒会執行委員 浮中 ひより

普段、道徳の授業などで「生きること」について考えることがあります。しかし、私はいつも軽い言葉でまとめて終わってしまっていました。これがどれだけダメなことだったか、私は被災地の方々と関わる中で知ることができました。

私は、門脇中学校の生徒の皆さんと交流をさせていただいて、二つの言葉がとても印象に残っています。

一つ目は、「想定外を想定内にする」という言葉です。東日本大震災は日本中、世界中を驚かせた出来事でした。誰もが「想定外」だったと思います。家族で避難場所を確認し合うことや、非常袋を用意するという行動が「想定内」にすることにつながることを教えていただきました。

「想定外を想定内にする」ということは日本を超えて世界へ発信していくことが重要なのではないかと思います。

二つ目は、「震災が貴重な体験になった」という言葉です。私はこの言葉を聞いた瞬間、啞然としました。そして、「強いな」と心から思いました。話の中で「震災が憎い」という言葉も聞きました。私たちが思う以上に何倍も何十倍もつらい経験だったことは間違いないと思います。それなのに「貴重な体験になった」と言えるのは、今この瞬間を無駄なく一生懸命生きていく証だと思います。震災への憎しみ、怒り、悲しみなど様々な感情に打ち克って、今自分にできることは何かと考えて行動することは、強い人にしかできないことだと思います。

二つ目は、命を守る訓練の大切さです。門脇中学校の方々は地震が起きたとき、瞬間の行動が生死を分けると言っていました。また、命を守る訓練では、万が一のケースを想像しながら取り組むことが大切だと教えていただきました。今の坂祝中学校の命を守る訓練は、本当の地震を想定して、抜き打ちの訓練をしています。そのため、自分たちで考えて行動する力が身につく、避難開始から運動場に全員が集合するまでの時間が、早くなっています。しかし、放送をよく聞くことと、移動中の私語を無くすことが課題としてはつきりしました。また、廊下や階段、トイレなどの教室以外の場所にいたときの、避難方法を共通理解するとよいと思いました。

思います。

私は、この二つの言葉から、生きることは生死と真剣に向き合った人にしか分らないことかもしれないと思いました。人間にとって生きるということが一〇〇%分かる日は来ないと思います。私は、分ろうとすることに意味があるのではないかと考えました。生きることは日常的なことです。いつ、何が起きるか分からない世の中で生きていくのが私たちです。何かが起きたときに、「日常」が出ると思います。だから、日常から防災への意識をもつことが、今私たちにできる唯一のことだと思います。

私は、被災地を訪問させていただき、「生きる」ということが何なのかを今まで以上に深く考えました。他の人が聞くと、きれいな言葉を並べて重みのない言葉に聞こえるかもしれません。しかし、これが、私が二泊三日の体験で学んだことのすべてです。

り、地震や津波の自然災害から自分の命を守るには、日々の訓練に真面目に取り組むことが必要です。非常時の姿は、日常生活の姿がそのまま表れると思います。だからこそ、日々の生活の姿を大切にしていきたいと思っています。

私は、このような学んだことを、学校全体に発信したいと思いました。それは、東北での被災地交流の経験から学んだことを、今後の生活に生かしていきたいと思ったからです。そして、そのことを自分たちだけが知っているのではなく、周りの人たちに伝えていくことが、交流に参加した私たちの使命だと思いい、全校集会で発表しました。

「大切なのは、日常の姿」。この思いを、これからも大切にしていきたいです。

大切なのは、日常の姿

坂祝町立坂祝中学校
生徒会執行委員 天田 葵

被災地交流を通して、印象に残ったことがあります。それは、門脇中学校の方々と交流の際に、質疑応答で交わした言葉です。「一番変わったことは何ですか。」と質問をしたところ、「震災当時は家や友達を失い、震災を憎みました。しかし、復興するにつれて、前向きに考えられるようになり、今自分にできることをしたいと思うようになりました。」と答えてくれました。また、各地を回って講演をするのは、「同世代の人から伝える方が伝わる」「私たちが伝えたい誰が伝えるのか」という思いがあるからだと言われたことが心に残りました。

そして、交流から二つのことを学びました。

一つ目は、「当たり前」は「当たり前ではない」ということです。今私たちは、日々温かいご飯を食べ、お風呂に入り、学校に通っています。しかし、門脇経験したことを自校で三つ発表しました。

一つ目は、石巻市の現状について発表しました。東日本大震災から四年五ヶ月経った今でも、復旧・復興の活動が続いています。津波によって、何もかもがなくなってしまった野原、壊れた校舎など、津波の爪痕が今でも残っていました。その中で、堤防を造り直していたり、様々な施設で耐震工事を行っていたりと、復旧・復興活動が進んでいることを発表しました。また、「一日でも早く、復興できますように」と願いながら、今自分ができることを進んで必死になつて活動に取り組んでいる人がいることも伝えました。

二つ目は、門脇中学校との交流について発表しました。私たちが質問をしたことに対して、いろんな考えを話してくれたたり、門脇中学校として行っている取り組みについて答えてくれたりしました。私たちの質問の「食事の様子はどうでしたか。」という問いに対して、「給食は二、三ヶ月間ずっとクロワッサンをみんなで食べました。また、油揚げ

私たちが伝えたこと

坂祝町立坂祝中学校
生徒会執行委員 三品 明白香

私たちは、今回の交流事業で

実践紹介2 下呂市立尾崎小学校「学校行事＋在宅組型」

ポイント ○親子読書と同時開催！子どもの実態によってコースを選択する
ノーメディア・ノーゲームデー

願 い メディアをすべて排除するのではなく、子ども達の生活を見直し、子ども自身がメディアの利用をコントロールする力を身に付けてほしい。
ノーメディア・ノーゲームの時間を読書タイムにする等有効に活用してほしい。

対 象 全校児童と保護者

実施期間 第1回 7月
第2回 11月21日(金)～12月8日(月)

活動内容 ①子どもとよく話し合っ、実施日とチャレンジコースを選択する。
②家族全員で取り組む。
③取組状況と子ども・家族の感想を記入して提出する。

保護者の感想 ・本人が7日間ノーメディアにすると決めた。テレビを見たいと言いつつかと思っただが、一緒に散歩をしたり、オセロをしたりと楽しい時間だった。
・ノーメディアだと、食事・お風呂がスムーズにいく。いかにメディアに操られているかが分かった。
・我が家ではDコースで精一杯。少しずつ上のコースを目指したい。

【5つのコース】

| パーフェクト | 一日中ノーメディア |
|--------|---------------|
| A | 帰宅～寝るまでノーメディア |
| B | 夕食～寝るまでノーメディア |
| C | メディアは1時間のみ |
| D | 食事・勉強中ノーメディア |

計画通りに達成できた率は、今年度第1回目84%(前年度同期74%)と高くなり、運動の成果は確実に上がっています。家族全員で取り組めるように、祖父母も「孫のため」と協力してくださっています。2回目は、さらに充実した取組になるように「読書週間」と同時開催しました。この取組を始めて4年目になります。継続して「ノーメディア・ノーゲームデー」に取り組み、子どもの生活を見直すとともに家族の時間を大切に、会話を楽しんでいます。

企業内家庭教育研修の紹介【大垣信用金庫】

小中学校で行う家庭教育学級だけでなく、企業でも家庭教育に関する研修が実施されています。最近では、保護者だけでなく、これから子育てに取り組む人や、自身の子育てを終えて保護者以外の立場で子育てに関わる人等、対象を広げた研修が増えつつあります。

今回は、大垣信用金庫が職員を対象として実施した家庭教育研修を紹介します。

講 師 西濃教育事務所教育支援課 後藤 伊都子 家庭教育推進専門職
講 話 「親の笑顔が子の笑顔～みんなで子育て～」
①子育てしにくい今だからこそ「みんなで子育て」
②子育ての目標は子の自立 自立には自己肯定感が必要。子どもの成長やよさに心から喜び親でいよう。
③子育て真最中のパパやママへ 支える職場のみならずみんなが笑顔でいられることが、職場のためにもなる。

アンケートより ・家庭状況、プライベートについて普段職場には見せないようにという考えがあったが、家庭円満でこそ仕事が充実すると納得した。また職場の一人一人に心配りをするのが、店にとってよいことだと思った。
・女性だけでなく男性も子育てについて考える機会になるのがよいと思う。
・これからの子育てについて改めて考えさせられた。そして、子どもが生まれた時のことを思い出し、早く子どもに会いたいと思った。
・会社全体で、子育てに対し温かい雰囲気を作り出していきたい。

家庭教育に関わる研修を初めて受けた方からは、子育ての大変さや周りの協力の大切さを感じたという声がありました。子育てと仕事を両立させるためには、本人の努力はもちろんのこと、身近な人々の支えが必要です。家族や地域社会等、みんなで子育てを応援していきましょう。

○家族・仲間との会話やふれあいを大切に
「話そう！語ろう！わが家の約束」運動を推進してきた今年度、在宅組型の家庭教育学級に取り組んだところが多くありました。この取組は、学校行事や講演会、体験活動につなげて実施することができ、全保護者が実践可能です。多くの学校で、ノーテレビ・ノーゲーム、携帯電話やスマートフォン等のインターネットに接続する機能をもつ機器の使用ルール、家庭学習、生活習慣等について、家族での話し合いが行われていきます。会話を大切にしてお互いの気持ちを伝え合い、理解し合うこと、ふれあいを大切にして、親子の絆を深めることができ、在宅組型を取り入れ、親も子どもも一緒に成長できるような家庭教育学級を目指しましょう。

編集後記

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！ぜひご覧ください！！

一掲載内容一

- ・平成23～26年度家庭教育学級の実践
- ・家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」
- ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅡ(乳幼児期編)」
- ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅢ(小・中学校編)」

岐阜県 家庭教育学級

検索

実践紹介1 中津川市立坂下小学校「在宅組型」

ポイント ○「話そう！語ろう！わが家の親約束」運動で親の意識改革を図る

願 い 家族の会話やふれあいを大切にするために、親が約束宣言をし、親が約束を守ることで、親の意識を変えていきたい。

対 象 全校児童と保護者

活動内容 ①保護者が子どもに親約束宣言をする。
②第3日曜日と「8」のつく日に、実践カードを活用して取り組む。
③子どもへのメッセージ、家族へのメッセージをカードに記入して提出する。

わが家の親約束宣言

- ◇子どもと目を合わせて「おはよう」「おやすみ」「行ってらっしゃい」「おかえり」とあいさつをします。
- ◇玄関先まで子どもを見送ります。
- ◇お手伝いをしてくれたら「ありがとう」と言います。
- ◇その日頑張ったことを聞いて、「頑張ったね!」といっぱい抱きしめます。
- ◇子どもの顔を見て、話を聞きます。
- ◇進んで行動ができるように、口を出さずに見守るようにつけます。
- ◇一緒に寝ます。
- ◇寝る前の読み聞かせをします。
- ◇一緒にキャッチボールをします。
- ◇犬の散歩と一緒にいきます。
- ◇好きなおかずを作ります。

実践とメッセージ

いっしょにねる。ねるまえにだきしめる。

親「一人だと心配だなと思ううちは、一緒に寝ようと思います。寝る時に、今日あったことを話してくれるのも嬉しいよ。」

子「ありがとう。だいすき。うれしい。すき。」

いいところを3つほめます。5秒間抱きしめます。

親「いいところをほめ、抱きしめることで、親もとても温かい気持ちで笑顔になります。これからも続けたいです。」

子「ほめてもらうとうれいなんです。これからもたくさんぎゅっとしてもらいたいです。」

子どもの仕事をやります。一緒に遊びます。

親「いつもは、弟や妹の事ばかりで、お姉ちゃんだからたくさんがまんさせてしまっておめんね。もっと一緒に遊べる時間をふやせるようにするね。」

子「またいっしょに遊ぼうね。楽しかったよ。」

10分間、話を聞く時間をつくります!

親「野球を頑張っているの、共通の話題でよく親子で話すことができている。これからも意識して話を聞きます。」

子「家族と話す時間が増えたので、これからも話す時間を増やしたい。」

家族で夕食の時にその日にあった出来事をお互いに話します。

親「いつも色々とは話しているけれど、いつも以上に話が増えてよかったです。」

子「この取組を通して、家族で話をし、仲が深まったと思うのでよかったです。」

取組後の保護者の感想

- ・あいさつは子どもから言ってくれるようになりました。親の姿をよく見ているので、良い手本となれるよう言動を見直していきたいです。
- ・この取組のおかげで、今まで以上に親子の会話が増えました。
- ・約束を守ってことはとても大切だけど難しいね。これからも「親約束」を頑張ってお守るようになります。

「親約束」は、親が子どもにさせる約束ではなく、親が子どもにする約束です。「おはよう」「ありがとう」とあいさつをすること、子どもの頑張りを認め励ますこと、子どもとのスキンシップを大切にする、子どもの不安を解消すること、一緒によい時間を過ごすこと等、家庭で大切にしたいことが「親約束」の中につまっています。「ギューは、ちょっと恥ずかしかったです。」という子どもの感想には、嬉しさがあふれていますね。

親が、約束を守る活動を通して自分と向き合い、意識を変えることで、おのずと行動が変わってきます。そして、親が変わること子どもも変わります。まずは親が手本になる「親約束」は、親も子どもも成長し、親子の絆を深める活動となっています。

お気軽に相談ください！
各教育事務所には、家庭教育推進専門職がいます。家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

| | |
|---------|-----------|
| 飛騨教育事務所 | 0577-3311 |
| 東濃教育事務所 | 0577-3311 |
| 可茂教育事務所 | 0577-3311 |
| 美濃教育事務所 | 0577-3311 |
| 西濃教育事務所 | 0577-3311 |
| 岐阜教育事務所 | 0577-3311 |



1 学校の特徴

本校は平成二十二年四月、揖斐郡揖斐川町谷汲に開校した、総合化（知的障がい・肢体不自由・病弱の障がいのいずれか、又はそれらを併せ有する児童生徒を対象）特別支援学校です。今年度で七年目を迎え、開校当初は三十九名だった児童生徒は九十九名に増えました。小学部・中学部・高等部があり、小学部は主にスクールバスを利用して、高等部は主に養老鉄道や揖斐川町のコミュニティバスを利用して登校しています。

「いきいき のびのび かがやこう」を教育目標に掲げ、地域社会の中で生き生き伸び伸びと生活する児童生徒を目指すため、児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばし、地域社会に参加していく基礎的・基本的な力を身に付けることができるように、次のことをねらいとしています。

●児童生徒一人一人の障がいの状態や特性、発達段階等に応じたきめ

細かい教育支援を行う。
●仲間や地域と共に、たくましく明るく生きる力を育む。
●児童生徒が、主体的に社会参加するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を培う。

2 各部の取組

○小学部

小学部は、遊びや体験的な学習を通して、「生活リズムを整え、元気に活動し、丈夫な体をつくる。」「自分の思いを周囲の人に伝える力を身に付ける。」「友達と関わる



中で、優しい心を育てる。」「ことを目標としています。また、交流籍のある居住地校で、各自年二〜三回の直接交流を行っています。回を重ねることでお互いのことが分かってくて、心に残る交流となっています。

○中学部

中学部は、地域や関係諸機関との連携を図りつつ、「健康な生活を送るための体力を培い、最後までやり抜く力を身に付ける。」「自分の意志を相手に伝え、仲間や周囲の人と関わる力を高める。」「様々な活動に進んで取り組み、生活に根付いた知識・技能を身に付ける。」「



ことを目標としています。総合的な学習の時間には環境学習に取り組み、地域の方に協力していただいて河川の生態調査等を行っています。

○高等部

高等部は、社会的自立や職業的自立に向け、「健康な体と豊かな心を育み、コミュニケーション能力の向上を図る。」「望ましい勤労観と社会性を身に付け、進んで仕事に取り組み。」「様々な活動を体験し、豊かな生活を送る力を身に付ける。」「ことを目標にしています。作業学習の時間を週十一〜十二時間設定し、地元の企業の協力を得て



校内作業実習、現場実習、企業内作業学習や販売活動を行っています。また、「交流及び共同学習」にも取り組み、近隣の高校との授業交流や、共同での販売活動を行っています。

3 PTA組織

PTA本部役員（会長一名、副会長二名、書記一名、会計一名、会計監査二名）と三つの各専門委員会（福利厚生委員会、広報委員会、研修委員会）に全会員がいずれかの委員会に所属し、PTA活動を運営しています。

4 PTA活動の紹介

①「わいわいカフェ」

保護者にとって関心が高い内容を年四回企画し、楽しく繋がれる交流の場を提供しています。今年度の活動は、第一回は新PTA会員歓迎会を行い、サンドイッチを作ってランチ交流しました。校長先生にもサプライズゲストで、ギター演奏を披露していただき、美しい音色が流れる中、和やかな雰囲気です話すことができました。第二回は卒業生の保護者と語る会



を行い、卒業生の働く様子を保護者から聞く機会を設け、進路について考える機会を作りました。第三回はツールペイント教室を開催しました。毎年第四回のプリザーブドフラワー教室では、卒業式で身に付けるコサージュ等を作っています。

②親子夏まつり

各委員会で、小学部から高等部までの子ども達が楽しめるゲームを企画・運営をします。本部役員はポップコーンを作り、高等部生徒、近隣の高校生ボランティアさんによるブース、また管理職の先生方を中心に「かき氷」「綿菓子」「コーナーを担当していただきました。子ども達は、家族と一緒に各ブースを回り楽しんでいきます。

アトラクションとして、今年度はサックスコンサートを楽しみました。コンサートの後、子ども達も普段触れないサックスに触れる貴重な体験をさせてもらいました。保護者も楽器の素晴らしい生演奏を聴き、リフレッシュできました。



③学習発表会PTAバザー

本部役員で食品バザーを実施しています。その他に、地域の方々も食品を作って振る舞ってくださいます。

④啓発活動

毎年十一月に開催される「いびがわマラソン」のウォーキング部門への参加を児童生徒に呼び掛け、親子で参加しています。また、販売ブースで、高等部生徒の作業製品（竹・工芸品クッキー）を生徒と一緒に販

売することで、地域の方に本校のことを知ってもらい、より理解を深めてもらう機会を作っています。



5 保護者の願い

子ども達は、「いきいき のびのび かがやこう」の教育目標のもと、学校と保護者が一体となり、先生方、地域の方々、ボランティアの方々に支えられ成長していることに感謝しています。中学部から、働くことを意識した作業学習に一生懸命取り組んでいます。卒業後も、周りの方により部分、苦手な部分を正しく理解してもらい、地域の中で特性を活かせる仕事・生活ができることを願っています。保護者も学校やPTAでの関わりを通して、卒業後も繋がっていけることを目標に、学び合い、楽しみながら活動していきたいと思えます。

ボランティアニュース

vol.9

「お父さんお母さんたち、すごいなあ！」

初めての親子掃除

岐阜市立茜部小学校PTA

師走の土曜日、PTAの企画で「親子大掃除」を行いました。土曜日に時間をたっぷり割いて親子で掃除を行うのは初めてで、計画から準備まで試行錯誤の連続でした。日頃お世話になっている学舎（まなびや）を親子で感謝の意を込めてきれいにしたい、そして、できれば父親にも学校へ足を運んでいただき、二人でも多くPTA行事に参画してほしいという願いのもとで当日を迎えました。

当日は三〇〇人という予想以上の保護者に参加していただき、父親もたくさんいらっしゃいました。お父さんたちは窓のさんにつかまったり脚立を使ったりして高い所も平気で黙々と掃除をされており、その姿を見ていた子どもたちから思わず「お父さんたち、すごいなあ！」という歓声があがりました。

学校がきれいになったことはもち

ろん、子どもたちにとつて、お父さんやお母さんの真の「かっこよさ」や「すごさ」を再発見するよい機会にもなったようでした。



「夢生き生き文化フェスティバル」 子ども・地域・親子を共につなぐ夢

岐阜市立長森南小学校PTA

長森南小学校では、毎年十月三日「夢生き生き文化フェスティバル」を開催しております。これは、PTAや地域の方々が各教室にわかれ、竹馬、将棋、花火作り体験、茶道：等々を子どもたちに体験してもらいます。

普段、ゲームばかりで遊ぶ子どもたちが、その一日は、地域の文化や私たちが子どもの頃に遊んでいたような遊びに夢中になります。校庭、校内は子どもたちと地域の方々の笑顔、ふれあいであふれます。

家に帰った子どもたちが「今日こんなことしたんだよ」とか「今日これ作ったよ、こんなふうにするんだよ」「私も子どもの頃それやったよ」：そんな親子の会話、絆を深めるきっかけになってほしいという願いもあります。

「教育とは共育である」という言葉がありますが、夢生き生き文化フェスティバルは、子ども・地域・親子を共につなぐ夢が詰まった活動です。



▲手筒花火作りの体験学習



▲校長先生自ら手筒花火を子どもたちの前で実演

地域に還元できる活動を

岐阜市立七郷小学校PTA

七郷小学校PTAでは、数年前から月に一度の資源分別回収のお手伝いを行っています。

自治会を通して業者さんをお願いをし、トラックに役員さんが乗り込み、雑誌・チラシ・新聞紙の積み込み作業を手伝います。

そして回収された資源の売り上げの一部は、PTAの活動費へと還元されています。さらにその活動費を使って、年に一度、「ななさとふれあいコンサート」と題してミュージシャンの方をお呼びして、地域の皆さんも観覧できるコンサートを開催しています。



しかし最近では地域に近いところに業者が設置した資源ゴミステーションが増え、そちらにこまめに資源ゴミを出しに行く方が増えた事によって、回収量の減少傾向に悩まされています。

地域に還元できる形でコンサートを開くために、資源ゴミ提出のお願いをさらにアピールすることに力を入れています。

地域が一体となって開催する「ほんじょう文化祭」

岐阜市立本荘小学校PTA

子どもたちが、いろいろな世代の地域の人々とボランティア活動に参加することは、心を育む大切な機会だと思います。日頃お世話になっている地域の方への感謝の気持ちを忘れないでほしいと願っています。

本荘小学校では、地域と仲良く協力して開催する行事がいくつかありますが、そのうちのひとつが、毎年秋に開催される「ほんじょう文化祭」です。ステージでは、合唱やバンド、舞踊、琴、三味線などのレベルの高い演奏が楽しく披露されます。また、体育館では、校区内の保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校、デイサービス、グループホームの素晴らしい作品が多数展示されます。お茶席や模擬店などもあり、盛りだくさんな楽しい文化祭です。

地域の人が心待ちにしている文化祭の準備は、地域が一体となって行っています。子どもたちも、ぜひとも力になりたいという思いで、積極的に参加しています。

前日に、作品を展示するためのパネルを運び、いすを並べます。「重たいね！」「でも、がんばろう！」などと声を掛け合いながら笑顔で取り組む姿は、本当に微笑ましいです。



～食育への生かし方～

27年度 学校給食調理発表会 作品集⑥

優秀賞

関市洞戸学校給食センター

チーム名 「洞戸キウイ」



<献立> 五目おこわ・牛乳
奥美濃古地鶏ダブルキウイソースかけ
じゃがいものごまあえ
洞戸呉汁・冷凍みかん

<献立について>
関市洞戸地区の食材を多く使った献立です。
五目おこわは、長寿会の方の指導のもと洞戸小の児童が育てたもち米を使って作りました。奥美濃古地鶏は、洞戸で収穫されたキウイで作ったワインで下味をつけて焼いた後、キウイジャムで作ったソースをかけました。洞戸呉汁は洞戸味噌を使って仕上げます。洞戸味噌には米味噌・赤味噌・豆味噌と3種類あります。使用する味噌の種類と量を変えることで毎回違う味を味わってもらうことができます。

(献立作成者) 栄養教諭 増田ひろみ
(発表者) 増田ひろみ・長屋陽子・ウिल्ズ恭子

資料提供…(公財)岐阜県学校給食会

school infirmary

保健室ノート

●高山市立国府中学校
田尻 圭美

心の原風景

数年前、母校に勤務したことがあります。そこで私が感じたことは、母校や地域の子ども達に対する熱意は、自分の想像を遥かに超えるものだったということです。全校集会で後輩に向けて話をする機会に恵まれた時、自分を育ててくれた地域のことを伝えたい思いに駆られていました。読み聞かせのように話したその一部を紹介します。

「昔々の話。ひばりが丘にある小学校が、まだ木造校舎の頃、橋場九班に「たまちゃん」という女の子がいました。その班には、新聞屋さん、靴屋さ

がいました。「あれー、たまちゃんやろ。少しも変わっておらん。昔の面影がある。」と言われ驚いたたまちゃん先生。一瞬にして子どもの頃の記憶がよみがえり、懐かしさと気恥ずかしさでいっぱいになりました。床屋のおばちゃんでした。何十年もたって、子ども時代を知っている方に声をかけられ、「頼むさなー」と言われる喜びを初めて知りました。あなたは、家の近所のおじちゃんやおばちゃん、おにいさんやおねえさんの顔や声、どんなふうにご話してくれる人か知っていますか？自分が育

ん、映画館をやっていた旅館にヤクルト屋さん。隣の班には、テント屋さん、八百屋さん、床屋さんなど、商売をしているおうちがたくさんありました。ある冬の日、たまちゃんのおかあさんが、赤ちゃんを産みました。お隣のおばちゃんに、「今度生まれたのは、男の子？女の子？」と聞かれると、二歳にもならないたまちゃんは、「いもうと」と答えました。そんな頃から、たまちゃんはずっとお姉ちゃんでした。妹にはきつと解らないお姉ちゃんの気持ちでした。班には、たまちゃんを先頭に十

二人の子どもがいて、自分の家や近所、家の周り、田んぼ、山、川を遊び場にして、親があきれるほど、いつも一緒に遊んでいました。春は山行き。山の麓の家では、馬を飼っていました。ある日、馬がおしっこするのをみんなで見

つ地区の田畑、山川、草や木、小動物などの自然の様子を、どれだけ感じていますか？自分のことを知っている人がたくさんいることは、とても幸せなことです。子どもときは分からなくても、大人になって初めて味わう気持ちがあるのです。みなさんは、地域の大事な子どもです。町や人、自然がみなさんを育ててくれています。」と結びました。

て、そりやもう、びっくりです。突然、太いホースのようなおちんちんが、ピローンと長く伸びたかと思ったら、バケツの水をひっくりかえすほどの勢いで、おしっこがドバっと流れ始めました。」

私の話を作り話と聞いていた子どもたちは、自分の親や家の周りの名前が次々出てくるので、首を上へ上へと伸ばし、瞬きもせず視線を向けて聴き入っていました。「…あれから長い年月が流れ、たまちゃんは母校の先生になりました。子どもの頃は、桜と土手の草花が美しく咲き、風情のある石段があった橋場坂は、あつけないほど短く、姿を変えていました。坂の上から見える景色も現代的に変化し、運動場も校舎も、広く立派になっていました。四月のある日、一年生を送って橋場坂を下りるたまちゃん先生に声をかける人

二十一世紀は心の時代といわれます。価値観が多様化し、社会的環境のめまぐるしい変化のなかで、柔らかい感性を秘めた子どもたちは育っています。アイデンティティを支える心の原風景をいかに作りだしていくか、子ども時代を子どもらしく体験させなければ、おとなの心に成熟していくこともかないません。子ども達の健全な成長を願う環境を整え、何を語りかけ育てていくのかは、大人の課題であり、役割だと痛感しています。

J先生の思い出

下呂市立下呂小学校 教頭

矢島 明

「ああ、今年もJ先生の声が聞こえる。お元気そうでなによりだなあ……」

私の生まれ育った町では、毎年十月、恒例の町民運動会が開催される。大学生の頃、実家に帰った折り、たまたま家に居てJ先生の放送のアナウンスが聞こえ、懐かしく思い出された。J先生は、四十代の頃から町民運動会の放送アナウンスを毎年一手に引き受けられ、小学校周辺に響き渡る声で種目内容や途中経過など、軽妙な語り口で紹介された。町民運動会は、七つの分団毎に各種目に選手を出し総合得点で競い合う。私が小学生だった頃は、特に、身の回りに娯楽と呼べるものもなく、参加する町民も多いので、運動会は大変な賑わいであった。その中であって、J先生のアナウンスは、選手の心に火を付け、そして、観客を喜ばせた。アナウンスの仕方によって、こんなにも人を奮い立たせたり、喜ばせたりすることができるのだと思った。そんな時、私は担任だったJ先生の誇らしく感じた。

J先生には、小学五・六年生の時、受けもっていただいた。題名は忘れたが国語の物語文の読解で、「この文には、どんな意味があるのだろうか。」と問われた。その文は「火のついでにタバコの灰が長いまま床に落ちた。」という内容であったと思う。この文の意味するところは、「時間の経過」である。このことを私は時間内に見つけることができなかつた。けれども、事実から何かを語ることのできる文の面白さを味わうことができた。ある時は、坂本龍馬など幕末の志士の活躍、ある時

は、一流企業の会社名の由来などを面白おかしく話してくださいました。先生の話の中に登場する人物が、生き生きと活躍する様子に誰もがじっと聴き入った。これらの話の根幹には、夢をもち、その実現に向かって努力していく素晴らしさが込められていた。今でもJ先生がにこやかに、熱い眼差しで私たちに語ってくださいている様子が目に浮かぶ。J先生は、授業中はもちろん、誰かが休み時間に相談事を行えばじっくりと耳を傾け、にこやかに応答してくださいました。先生の素晴らしさは、誰にでも同じように、誰にでも熱い眼差しを平等に向けておられたことである。だから誰もが安心して教室に居ることができたのだと思う。

J先生とは、私が教員になってからも懇意にさせていただいた。ご自分で作られたガリ版ずりの冊子を参考にと送ってくださいましたこともある。同封された手紙には、「身体を大切にがんばってください。黙って応援しています。」と温かな言葉が添えてあった。折に触れ葉書などもいただいた。いつも私のことを気遣ってくださいっていたのだと心から感謝した。J先生と妻が、同じ学校に勤めたこともあり、私たちの結婚式にもご参列をいただいた。

残念ながら、J先生は七年前にお亡くなりになられた。しかし、その前年の夏、小学校の同窓会を開催し、J先生も交えて思い出話に花を咲かせることができたことが幸いであった。

教員になって、三十三年が過ぎた。退職に向け秒読みの段階を迎えている。私は、J先生のように教えた子たちに接していけたらと思いつつも、先生の足下にも及ばないまま年数だけを重ねてしまった。尊敬する先輩から、退職に向けた心構えを教えてくださいました。一方で、少なくとも同じ職場で働く教職員に何か伝えていけたらと思う。それは、J先生に教えていただいた自ら姿で示すことではないかと思う。「今」という時間をできる限り大切に、J先生に「よくやったな」と思っていただけのように、もう一踏ん張りするつもりである。

『たった一度の父との思い出』

昭和三十年代に生まれた子どもは、親に遊んでもらうとかどこかへ連れて行ってもらうなどということは、余程裕福な家庭でない限りありませんでした。

多くの家庭では、親が一生懸命働き、子どもは親の手伝いをして家族に協力をするというのが当たり前でした。したがって、今のように家族旅行に泊を伴って楽しく行ってくるということもあまりありませんでした。でも、同級生は夏休みが終わると、東山動物園に行ってきたとか、岐阜の花火を見に行ってきたとか楽しそうに話しかけてきました。

私の家は指物屋さしものやといって障子や欄間らんまなどを作っている、いわゆる大工でした。朝早くから夜遅くまで働きづめでした。従業員も三〜四人いて、とても活気がありました。

でも、父親と話をしたという思い出はほとんどありません。あるといえば大工道具にさわったりしたとき、ものすごく怖い顔で怒鳴りつけられたという経験だけでした。五年生の夏休みが始まるちよつと前に、思わずこんなことを母親につぶやきました。

「今年もどこにも行けないね。みんなはどこかへ連れて行ってもらうのいいなあ。お父さんとの思い出なんて何にもないや。」

と、その言葉に母親は少し寂しい顔をしながら、「お父さんはみんなが食べていくために一生懸命働

ていました。釣った魚をえさにして一晩おいておくのです。ウナギは夜行性なので、夜のうちに餌に食いつき釣れるというものです。思わず

「明日の朝も来るの？」とこみ上げるうれしさがありませんでした。

次の日の夜明け前に起こされました。川に着くと薄明るくなってきました。仕掛けは十四くらい仕掛けたので、あげるのが楽しみです。初めの四つくらいには何もかかっていませんでした。ダメだったのかと思いかけたとき、まず一匹かかっていました。結果は四匹のゲットでした。

家に帰ると、ウナギの蒲焼きをするということで、父親がさばき始めました。何か職人さんのようにすぐできました。ウナギを焼くときの香ばしい臭いに今か今かと待ちました。口に入れたときのおいしさ

いているのよ。お父さんが働かなかったら生活がでないよ。」

と、少し力強く言いました。(今年も仕方がないか、何でこの家に生まれたのだろうか。)などと自分の境遇を悲しく思っていました。ところが、父親が「今度の日曜日に近くの川に行つて魚釣りや泳ぎやスイカ割りをして家族で楽しむよ。」

と言いついたのです。本当にそんな日が来るのか疑いながらその日を待ちました。よく晴れたお日様がさんさんと輝く絶好の日になりました。お弁当やスイカや釣り道具などをもって母と父と妹と自分の四人で歩いて出かけました。川に着くと早速水浴びです。いちいちここは深みだからってはいけないとか、ここは流れが速いから危険などと丁寧に教えてくれました。こんなに多くを詳しく親切に語る父親に接したのは初めてでした。スイカ割りも目隠しをしたらこんなに割れないということも経験しました。魚釣りも父親とするのは初めてでした。父親はポイントを心得ていて、父親が言うところに入れると必ず釣れました。楽しい時間は短いものです。二時過ぎになりました。帰らなくてはなりません。(帰りたくない。帰りたくない。)と思っていたとき、父親が

「ウナギの捨て針をするぞ。」

といったら格別でした。

この体験が大人になるまでのただ一回の父親とのふれあいでした。この一日半の時間を子どもたちのために費やした分、父親は何日も夜遅くまで残業をしていました。

たった一回のこの思い出は、私が父親になったときの基準になりました。(この楽しい思い出を我が子にはいっぱい味合わせやりたい。)そう思っているいろいろな場所に車で行つたりいろいろな活動を家族でしたりしました。

お金を使わなくても、遠くに行かなくても、泊を伴わなくても親と時間を共にした経験、いろいろな活動で「情を共有」した経験は一生子どもの心に残るものです。

pleasure イラスト&クイズ



P.N. びくるすさん (関市)



P.N. エネ (関市)

QUESTION-1

お父さんがきらいな食べ物は何?



出題・上田 凜 (岐阜市)

《答えは45ページ》

★子の思い

お母さんかかむもむしたお手紙

多治見市立瀧呂小学校

一年 中山ゆい

わたしの弟にはアレルギーがあります。牛にゆつや小麦を食えるとせきがでて、くらくらしてしまいます。チョコリートやアイスはわたしは食べられるけど、弟は食べられないから、弟の前では食べないように気を付けています。

みそでおちしをもらったとき、弟が食べられるものほのこして家にもって帰ります。そして、それを弟におげます。弟は、

「ありがと。」
と喜んで、おちしを食べてくれます。学校の道への時間には、家のお手つだいをして家々へのやへに立ちこたをへんきまうしました。そ

の時、お母さんからお手紙をもらいました。「じつも弟のことを思って、食べられないものをきこしてくれてありがと。」というお手紙でした。

わたしが弟のことを大じに思っていることを、お母さんがわかってくれてうれしくなりました。これから弟にやさしくしようと思えました。弟が食べられるようにれんじゅうしているの、おうえんしていきます。

継続のひみつ

可児市立桜ヶ丘小学校

六年 河村 日菜子

私には継続できていることがあります。それは『お風呂掃除』です。この仕事を行うようになったきっかけは、夏休みのお手伝いでした。それから、土曜日、日曜日

には、必ず私が掃除するといことになっていきます。

何気なく行っていたお手伝いですが、家族が「じつもきれいに洗ってくれてありがと。」

「気持ちよくお風呂に入れるよ。」
と聞いてもらえます。この言葉は何度言われても、じつもうれしく気持ちになります。私がお風呂を洗うことが、家族の役に立っていることが分かり、必要とされていることとても誇りをもってします。

これからは『お風呂掃除』を自分の仕事として継続していきたいと思えます。継続することは簡単ですが、じつの間にか止めてしまったたり、気持ちがうすれてしまったりすることがあります。でも私の場合は誰かの役に立ったり、感謝されたりすることで継続する

ことができたと思っています。
これから私が『お風呂掃除』以外に継続していきたいのは、『自分の机の上をじつも整えたい』です。私はもうすぐ中学生になります。勉強が気持ちよくできるような机の上していきたいです。

目標の回し

揖斐川町立谷汲中学校

三年 阿藤晴香

突然ですが、私は数学が苦手です。一・二年生の頃は、何度やっても解けなくて、テストでも思うような点をとることができないでした。そんな自分がなさなくて、いつからか苦手なことは避けるようになっていました。

これではいけないと思うようになったのは、三年生になってからでした。二学期の始めに受けた模

★親の願い

信頼するじつ、わかれじつ

岐南町立西小学校PTA

会長 山田英司

我が家の家族構成は、私と妻、三人の子どもたち。上から中一、小六、年中で、一番上のお兄ちゃんは面倒見がよくじつかり者、真ん中のお兄ちゃんは腕白でマイペース、一番下は自由奔放と絵に描いた様な男三人兄弟で、とても賑やかな明るい家庭です。

試の結果を見たとき、「これでは、行きたい高校に行けない。」
と、現状をつきつけられました。苦手から逃げてはいけない。ちゃんと向き合わなければ、と思えました。

それから、今まで行ってきた自主学習と宿題の他に、数学のみを行う時間を一時間とるようになりました。ですが、やはり苦手と向き合うのはつらかったです。解けない問題があると、逃げ出さなくなりました。しかし、目標にと

どくようにするために、もう後悔しないように、あきらめずに続けました。

二回目の模試が行われました。しかし、結果は前回とほとんど変わりませんでした。でも、前よりもスラスラと解けた気がしました。三回目の模試では結果が出る信じて、それからもことん苦手と向き合いました。

三回目の模試が行われました。結果はなんと、前回よりも十点上、上がっていました。自分の努力してきたことが実ったことがと

ても嬉しかったです。また努力した分だけ結果がついてくることも分かりました。

このことを通じて、苦手なことから逃げずにじつかりと向き合うことの大切さ、努力することの大切さも学びました。これからは入試に向かっていかなければいけません。自信をつけて入試に向かいていくために、私はこれからも苦手と向き合って、あきらめず努力し続けたいと思います。

pleasure
イラスト&クイズ



P.N. りんご (関市)



P.N. ののた (岐阜市)

QUESTION -2

行きは階段、帰りは坂道、
これってな〜に？



出題・赤堀怜希 (岐阜市)
〈答えは45ページ〉

さて、「親の願い」として子どもたちに望むこと。どんな大人になつて欲しいか、どんな人生を歩んで欲しいか。多くの親御さんが「立派な大人」「幸せな人生」と言うでしょう。もちろん私もそう思っています。では、「立派な大人」「幸せな人生」を送るためには何が必要でしょうか。家族、友人、仕事、お金や物：幸せと思うためには沢山の条件があります。その条件の中で一つ挙げるとしたら「良い人間関係」だと私は思います。

良い人間関係の構築には必ず「信頼」が必要です。家族の中ではこの信頼はごく自然に出来上がっています。我が家の三男を見てみるとそれが顕著に現れる場面がよくあります。例えば高い所から跳ぼうとするのに、一人では絶対に跳ぶことのできないような高さでも私が下に立って手を広げてやるべ

躊躇なく跳んでくれます。この子が私のことを百パーセント信頼してくれているからこそできるのだと思います。

これは家族だからこそできるであって、他人と信頼関係を築くのはなかなか簡単にはいきません。子どものうちは勉強ができる、運動ができる、見た目がいい、活発で目立つ等の理由があれば、児童会や学級代表に就くことができ、周りの子どもたちは言う事を聞いてくれますが、成長するにつれてそうはいかなくなりません。そこには信頼が必要になってきます。

「人は知識があるから、地位があるから、正しいことを言っているから話を聞くのではなく、信頼しているから聞いてくれる。」

インターネットで目にした詩です。まさしくその通りで感銘を受けました。人を信頼してこそ信頼

してもらうことができます。息子たちには人を信頼する勇氣、信頼してもらおう言動、優しさ、思いやりをこの先培い、一つでも多くの良い人間関係を築いてもらいたいと思います。

私自身、息子たちに偉そうに言えるほど立派な大人ではありませんし、未熟者です。親として、「人を信頼すること、人から信頼される人」を目指し、社会人として息子たちと一緒に成長していこうと思います。

良さを伸ばすほめ方、叱り方

中津川市立神坂学校PTA

会長 尾関寿

「何回言えば分かるの。」「○○ちゃんはできるのに」「など、子どもを責めたり、他の子どもと比較したりすることはありませんか。

逆に悪いことをしても、きちんと自分の悪かったことを認めなかったり、誰かのせいにしてしまつことを容認したりしていませんか。

子どもにとって大事なことは、親が子どもの良さをしっかりと認め、教えることはきちんと教えていくことだと思います。

今の子どもたちには叱られた経験が少ない感じがします。子どもは「何が」「どのよう」にいけなかったのか、年齢や状況に応じて、親としての考えをしっかりと伝えることが大切だと思います。子どもたちもその時々には理解できないかと思いますが、いつか分かってくれることだと思います。

うわべだけのほめ言葉や感情的な怒鳴り方では、子どもには伝わっていません。「あなたはあなたのままで大好きだよ。」「家族みんなが本当に大切に思っているよ。」と

教育の窓

学校教育目標

『まごころで生き生き輝く尾崎の子ども』

下田市立尾崎小学校

校長 岩嶋 温子

昨年度、「ひびきあひ集会」で言葉について全校で考えました。それは、こんな理由からです。

尾崎地区はまだまた田舎らしい風景や人同士のよきつながりが残っていて、子ども達は元気で明

るく素直です。しかし、呼び捨てやきつい言葉により、心を痛める仲間がいることを知り、考えてみることにしたのです。

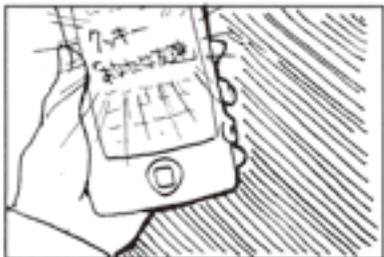
集会で私は「日本社会の四大チクチク言葉『死ぬ、消える、うしろさきもい』について話しました。大きな用紙に四つの言葉を書き、「人を傷つけるこの四つの言葉は死ぬまで使えません。」と話し、実際に「ミ箱に捨てました。数日後、代表委員会が『まごころあれば言葉かわる』という全校宣言。この様子は、その度に保護者の皆さ

んにも便りで伝えました。

今年度は「挨拶・反応・ほめか言葉」に視点をあてて活動しています。大きな声で笑顔心がけるハイタッチ挨拶、仲間の言動に立ち止まり心と姿で返す反応、ほかほか言葉をかけ、それにありがとつのが持ちは返すほかほか運動。『言葉』にこだわると、子ども達の感情が前にも増して豊かになりました。東京フィルのチェロ奏者が来校。演奏後、「私は演奏を聴いた瞬間、綺麗すぎて泣いてしまいそうでした。」の感想。朗読ボランティア

大垣桜高校 まんが研究部

ホワイトデー



逆さ言葉

にわとりとことりとわに
(ニワトリと小鳥とワニ)

出題・伊藤慎介 (山県市)

アの「フランダースの犬」を聞いて大勢の子ども達が涙。



▲全校宣言をステッカーにして全校配布

そして、保護者の皆さんにも伝わったかのような変化が。もみじ学習発表会の感想に私ほ心がほわっとあつたかくなりました。「昨年のもみじより、更に成長した我が子や他の児童のみなさんに感動しました。どの子どもはきはきとした声で伝えられ、また鑑賞する側の子ども、どの子ども心で聴こうとしていたように感じます。普段のまごころの姿が見られたように思い、先生方、友達に感謝しています。また、沢山の保護者の方が最後の閉会式まで見られており、それもまた感動しました。ありがとうございます。」「人前で話すことが苦手という我が子が『学習発表会期待していて』と珍しく頼もしいことを言ったり、『あーついに明日もみじか。緊張するな』と気持ちを高めている姿を家で見ているのでドキドキ参観しました。

どの学年の子ども広い体育館にびく声で一生懸命取り組んでいたのがすごいなと思いました。どの子どもんだことを堂々と発表している、やりきりたい意欲を感じました。方言あり、子どもらしさあり、エンターテイメント性あり、先生方の援助の元で子ども達が創り上げた発表会だったように思います。ありがとうございます。」「全員分どれも表現豊かでほかほか言葉いっぱい。そして、どの方からも「先生ありがとうございました」「先生、大変でしたね」「先生や仲間へ感謝」という気持ちが伝わってきました。親さんの心ある感想を書ける気持ちや姿を知らず知らずのうちに、子どもは感じとり、そして受け継いでいくのでしょ。今後言葉をも大切に、学校、家庭、地域でまごころを大きく育てていきたいと思います。

「できること」を伸ばす教育

岐阜特別支援学校

教諭 平山亜矢子

特別支援教育の世界に飛び込んで、今年で七年目になりました。それまで通常の中学校で勤務していたので、経験も知識も全くありませんでした。初めは不安もありましたが、今は「特別支援学校に勤務して本当に良かった。」と感じています。それは、「できること」を伸ばすという教育にかかわることができたからです。

私の勤務する特別支援学校には、知的障がいのある子どもたちが通っています。一人一人の障がいの状態は様々です。その中で、教師は子どもができることは何かを考え、できる環境を整えています。

私が所属している中学部では作業学習に力を入れています。作業

学習では、作業班に所属する生徒一人一人のできることは何かを考え、作る製品や作業内容、工程の分担を決めています。実際の作業では、必要な道具や補助具を一人一人に合わせて準備し、できるための支援をします。生徒によっては、作業を行う教室（環境）を変える場合もあります。



ここで教師に求められることは大きく二つあると思います。一つは「できること」をどう捉えるかという事です。特別支援学校の子どもたちは興味や関心が限定的

であることが多く、それが「こだわり」となり、さらに「困ったこと」と捉えられがちです。しかし、「こだわり」をその子の「できること」「能力」と捉えると、活躍できる場面は広がり、できることは伸びていきます。

私はできることの捉えや適切な支援ができるかどうかで、教師の力量を試されているように思います。今、私が感じているのは、「できること」を伸ばす教育は、特別支援教育に限らず教育を受ける全ての子どもが必要としているのではないかと感じています。今後、この学校に勤務することになったとしても、私はこれから子どもたちの「できること」を伸ばすために、教師として学び続け、少しでも子どもたちの力になっていきたいと思います。

大垣桜高校 まんが研究部

おひなさま



逆さ言葉

いたりあでもともで
ありたい
(イタリアでも、友でありたい)

出題・三島 唯 (郡上市)



わたしの
ゴールキーパー。

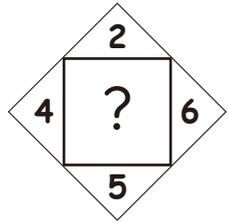
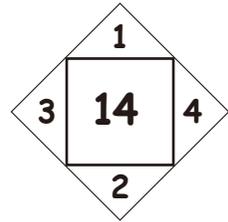
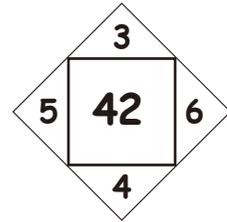
GK



Q1

次の数字は、ある規則に従って並んでいます。

□ に当てはまる数字はなんでしょう？



ヒント 上×下 右×左

Q2

次の山のうち、火山ではない山はどれでしょう？

い: 焼岳(やけどけ)

ろ: アカダナ山(あかだなやま)

は: 御嶽山(おんたけさん)

に: 伊吹山(いぶきやま)

ほ: 白山(はくさん)

へ: 乗鞍岳(のりくらだけ)



1月号クイズ答え

Q1 ネコ(猫)

Q2 ドイツ

1月号のクイズ当選者

- 澤田 怜奈(岐阜市) 土屋寿太郎(関市)
- 中村 俊貴(岐阜市) 山田 茜(郡上市)
- 坪井 祐真(岐阜市) 鈴木 麻友(郡上市)
- 木戸最大郎(羽島市) 三宅 晴(美濃加茂市)
- 丹羽希里歩(各務原市) 長江 聡大(多治見市)
- 池田 涼菜(大垣市) 渡辺 香澄(土岐市)
- 名和 秀晃(安八郡) 牧野 麗(中津川市)
- 柳瀬 綺音(不破郡)

応募方法

応募者は、はがきで、3月末までに下記の宛先へお送りください。

(1人1枚・当日消印有効)

※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824

岐阜市北八ツ寺町7

岐阜県校長会館内

岐阜県PTA事務局

「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●3月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●『わが子のあゆみ』
への感想・意見

●「なぞなぞ」の
問題と答え

●逆さ言葉

親子ではてな

3月号のクイズ



★お試しクッキング★
春のそぼろ寿司



三月三日は女の子の成長と幸せを祝う雛祭りです。雛祭りのごちそうといえば、春の味をたくさん盛り込んだちらしずし、一對の貝がただけがびたつと合うことから「大人になって、よい相手と出会えますように」という意味がある「はまぐり」を使った潮汁、その他に白酒や菱もちなどがあります。

今月は、卵を割りほぐしたり、人参を花型に抜いたり、盛り付けと一緒に考えたりと親子で楽しく作ることができると見てもきれいな春のそぼろ寿司を紹介いたします。調理する楽しさを知り、昔から伝わる季節の行事食について興味や関心を持つきっかけになることを願います。



材料
4人分

- ・精白米 ……2カップ
- ・砂糖 …… 大さじ3
- ・米酢 …… 大さじ1
- ・昆布茶 …… 小さじ2/3
- ・たまご …… 1こ
- ・塩 …… 少々
- ・砂糖 …… 少々
- ・サラダ油 …… 少々

- ・とりミンチ …… 40g
- ・しょうゆ …… 2g
- ・砂糖 …… 2g
- ・酒 …… 2g
- ・おろし生姜 …… 少々
- ・サラダ油 …… 少々
- ・鮭フレーク …… 大さじ4
- ・にんじん …… 花形12枚
- ・いんげん …… 8本
- ・塩 …… 少々

●栄養価(1人分)

- エネルギー …… 416kcal
- たんぱく質 …… 1.9g
- 脂質 …… 6.6g
- カルシウム …… 26mg
- マグネシウム …… 38mg
- 鉄 …… 1.5mg
- 亜鉛 …… 1.6mg
- ビタミンA …… 198μgRE
- ビタミンB₁ …… 0.14mg
- ビタミンB₂ …… 0.21mg
- ビタミンC …… 2mg
- 食物繊維 …… 0.9g
- 塩分相当量 …… 0.9g

作り方

- 1 米を洗い、少し水を控え固めに炊く。
- 2 鍋にAを入れ、火加減に注意しながら、砂糖・昆布茶を煮溶かす。
- 3 炊き上がったご飯に2を混ぜる。
- 4 卵を割りほぐし、塩・砂糖を入れ混ぜ合わせる。
- 5 フライパンを熱し4を流し入れうすやき卵を作り、短冊に切る。
- 6 鍋にサラダ油をなじませ、とりミンチを入れ調味料を加え、よく混ぜ火にかける。ポロポロになるまで炒り、そぼろを作る。
- 7 さやいんげんを塩ゆでし、斜めに切る。
- 8 にんじんを花形に型ぬきし、ゆでる。
- 9 鮭フレークは細かくほぐしておく。
- 10 ごはんを皿に盛り、卵、鮭フレーク、とりそぼろを盛り付け、にんじん、さやいんげんを飾りつける。



■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな？」の回答とともに送り下さい。

宛先はいずれも 〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。 採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4~5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■1月号を読んで

「私の先生」自分の息子も小さい頃から弱視で、小1の時にはよく階段で転んでいました。メガネをかけていたことから、卒園の頃に仲の良かった子から「気持ちが悪いから向うへ行け」と言われたことを今でも覚えています。本人もすごくショックで、しばらく友だちを作ることをためらっていました。そんなことがあったなあ、と思ひ出しました。 Nさん

「子の思い」ほっこりした気持ちになりました。子どもなりに家族が大切な存在であることを分かっている、その気持ちが表現されていて、ジーンとしました。大人である自分も家族を大切にしようと思ひます。 Yさん

「中三、親の気持ち」私も受験生という立場にあり、親の気持ちも特に考えずに、ただひたすら勉強していました。見守ってくれている親に感謝し、頑張ろうと思ひました。 Uさん

「特集」で講演会の内容が度々ありますが、実体験に即した内容で、毎回考えさせられたり反省したりしながら読んでいます。「私の先生」も心に残る話が多く、先生という職業は素晴らしいなあと思ひながら読んでいます。内容盛り沢山で、子育て中のわが身にとって役立つ話が多く、毎回楽しみにしています。 Tさん

■編集後記

谷川俊太郎の詩を中日新聞が紹介していました。いのちの詩「しんでくれた」です。くうし/しんでくれた ぼくのために/そいではんば一ぐになった/ありがとう うし/ほんとはね/ぶたもしんでくれる/にわとりも それから/いわしやさんまやさけやあさりも/いっぱいしんでくれる/ぼくはしんでやれない/だれもぼくをたべないから/それに もししんだら/おかあさんがなく/おとうさんがなく/おばあちゃんも いもうとも/だからぼくはいきる/うしのぶん ぶたのぶん/しんでくれたいきものぶん/ぜんぶ>塚本やすし絵。佼成出版社から絵本として出版されています。私たちは、普段何気ない平生の生活が、実はたくさん生き物たちの「死」「命」によって成り立っている事実を忘れがちです。「食事前のいただきます」の意味を、このよな生き物たちに対する感謝を込めて谷川さんは「しんでくれた」という言葉で教えてくれています。「今年度最後の「わが子のあゆみ」をお届けします」と前号で結びましたが、今号が最後です。被災地で「いのち」を見た中学生に語り部さんからいただいた「いざというときに、力になるのが中学生」という言葉。彼らの身震いに似た感動と決意をお届けします。中学生たちのこれから「いきる」姿を見守りましょう。

■なぞなぞの答え

- ①パパイア ②すべり台

■7月号のお知らせ(予告)

特集=子育て、仕事とPTA(仮題)/表紙=武並小/学校のたからもの=七郷小・府中小・中有知小・下呂中/わが家の宝物=瑞浪中/家庭教育応援団/療育=岐阜希望ヶ丘特別支援学校/お弁当の日=金竜小/保健室ノート=北方西小/私の先生=八幡小/半生記=尾崎小/ボランティアニュース=富加小・上麻生小・八百津東部中・東白川中/子の思い=蘇原第二小・揖斐八幡小・洞戸中/親の願い=真桑小・付知中/教育の窓=栃尾小・穂積中/お試しクッキング/ふるさとの伝承=明宝中/きりキッズ! =大和南小/我がが部活=長良中/私たちのPTA=登龍中

岐阜県PTA連合会ホームページのQRコードです。「わが子のあゆみ」のバックナンバー(27年度分は28年4月から)が閲覧できます。



わが子のあゆみ

平成28年3月1日 発行
春風号 第67巻5号
通巻第442号

頒価 200円(年間1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行/岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話/058-262-3257 FAX/058-262-3259
ホームページ/http://www.g-pt.com
Eメール/info@g-pt.com
印刷/サンメッセ株式会社

佐見地区には、戦前は四つの芝居小屋があり、なかには回り舞台、花道などを備えている芝居小屋もあつたそうです。しかし、戦後には台風被害などですべて消失。昭和二十八年の公演を最後に佐見歌舞伎は一度幕を閉じました。その後、芝居小屋もなく、歌舞伎の小道具である拍子木ひとつないところから、地域の方の熱意で平成三年、三十七年ぶりに佐見歌舞伎が復活しました。「佐見を離れている人たちが故郷へ帰るきっかけにしたい」「この熱い思いは地域に広がり、公演期間中は、佐見中学校体育館が地元のみなさんの手により立派な舞台に変身します。平成二十三年十一月には、「東日本大震災復興祈念公演」として上演され、大いに盛り上がったそうです。

そんな佐見歌舞伎を学校の教育活動に生かしたいと佐見小学校歌舞伎クラブが発足しました。しかし、歌舞伎の本格的な稽古はもちろん、衣装や化粧に多額の費用もかかります。それでも、故郷の文化を伝えたいという地域の方や歌舞伎師匠である市川福升先生のご指導のもと、平成二十五年第九回佐見歌舞伎公演に初めて、「白浪五人男」の演目で出演するまでになりました。「来年こそ弁天小僧を演じたい」そんな意欲を言葉にする児童まで現れました。

子どもたちは、歌舞伎を通して、単に台詞や所作を覚えるだけでなく、人前で堂々と演じる表現力、礼儀作法、和の挨拶、道具を大切にすることなど様々なことを学びます。また、昨年度からは重要有形民俗文化財である下呂市白雲座の見学を教育課程に位置づけ、歌舞伎の歴史や地域の願いも学びました。

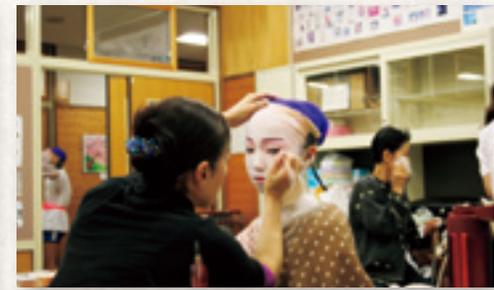
今年度は、第十回佐見歌舞伎公演の年でした。五・六年生合わせて十四名が演目「白浪五人男」に挑戦しました。総合的な学習の時間をその練習に充て、九月から練習を積み重ねてきました。歌舞伎独特の言い回しや見得を切るという所作に戸惑いながらも、だんだんと役者の顔つきになっていきました。そして、公演当日は歌舞伎役者独特の化粧をしていただき、立派な衣装や道具も身に付けさせていただきました。体育館には溢れんばかりの観客でしたが、歌舞伎ならではの掛け声やおひねりが飛び交い、子どもたちは役者に成りきって演じることができました。そんな子どもたちの姿から、子どもたちが地域を支えられ、地域に鍛え、育てられていることを実感できた二日間公演でした。



▲沢山の観客からおひねりが飛び交う



▲歌舞伎のお師匠さんに稽古をつけていただく



▲歌舞伎独特の化粧をしていただく



▲舞台公演を終えて一人ひとりが口上を述べる



▲白浪五人男が花道に登場する



▶歌舞伎独特の見得を切る

佐見歌舞伎第十回公演に向けて

きらり！キッズ！

瑞穂市立西小学校は、全校児童三百十一名の学校です。学校の教育目標「豊かな心をもち たくましく生きる力のある子」のもと、「こころ」「あいさつ」「ぐんぐんまなび」「もくもくそらじ」「いきいむ力」を培っています。「こころ」は、「西小四本柱」の取組について紹介します。

こころを大切に

気持ちのよいあいさつをし合うことで、全校の子が仲良く楽しい学校生活を送れるようにしたいと考え、児童会執行部の取組として常時活動で毎朝「あいさつ運動」を行っています。六月と十一月の「あいさつキャンペーン」では、目標数のあいさつができることずつ増える、あいさつリングをつなぎあわせ「あいさつのれん」を作り、のれんの長さを伸ばしていく取組を行っています。また、あいさつ運動の中で見つけた「気持ちのよいあいさつ」ができている子を毎日のお昼の放送で代表委員が紹介するなどして、あいさつは「仲間を大切にすること」につながるという意識を生み出すことができました。最近では、立ち止まって、おじぎをして、あるいは目を見て元気づけあいさつをする子が増えました。



「おはようございます！」
登校時間に児童会が元気な声であいさつを呼びかけます。



代表委員会による「あいさつキャンペーンの取組発表」で各学級の「あいさつのれん」の大きさを紹介しました。

ぐんぐんまなび

月・火・金曜日の朝、児童たちは八時十分になると席につき、計算・漢字・辞書引き・作文・視写、小テストなどを行います。学期末になると全員八十点以上をめざし、基礎的な学力の定着を図っています。最近では、「家庭学習キャンペーン」などの取組をきっかけに「進んで取り組む」子が増えました。



朝活動で、集中して計算練習に取り組んでいます

もくもくそらじ

集中して掃除をすることで、西小をよりきれいにする「もくもくそらじ」の取組も、西小学校の伝統として位置付けてきました。七月と十二月には環境美化委員会が中心となって「もくもくそらじキャンペーン」を行っています。キャンペーン中は毎日、取組の結果をお昼の放送で知らせ、賞状を渡したりもしています。最近では「もくもくだまっつ」だけでなく「時間いっぱい」「こだわり、掃除終了のチャイムまで」「やりぬく」子が増えてきました。



そうじのしかたを覚え、黙々と掃除に取り組みます。早く終わったら、見つけ掃除をします。



外掃除の子も、いっぱい草や落ち葉を拾い集めます。

なかよし班の仲間と、魚釣りゲームを行いました。



なかよし班の仲間と、芝生の校庭でドッジボールをしました。



いきいきあそび

西小学校の子は登校後、朝から、元気に外で遊びます。業間休みには「なかよし班」という縦割り班で、あるいは学級で計画的に遊ぶこともします。また、普段よりも昼休みを長く設定した「いきいきタイム」で思う存分遊べるような工夫もしています。これらの遊びを通して人との関わりを学びながら「仲間を大切に」気持ちが増えられました。



中体連での県大会出場を目指し、部員一同頑張っています。個人の得意技を磨きながら集中力を高めることも大切にしています。みんなで目標達成だ!

卓球部

●部長 島田 壮



僕たちは、県大会出場を目標に、日々の練習を頑張っています。一回一回の練習の時間を大切に、目標を達成できるようにこれからも頑張っていきます。

男子バスケットボール部

●部長 三輪尚史



女子は4人という少ない人数ですが、声を出し基本を大切に練習しています。男子は、県大会優勝を目標に、厳しい練習も一生懸命頑張っています。

剣道部

●部長 坂口瑠雅/衣斐美咲



切り換えがつけられていないことが課題です。それを改善するために、練習から精一杯頑張ります。そして、県大会出場という目標をかねえま。

女子バスケットボール部

●部長 宮川夢加



「全国入賞」を目標に、礼儀、活発な矢声、大会のような集中した雰囲気での練習を大切にしています。心も技術も成長し、全員が愉しめるよう精進します。

弓道部

●部長 渡邊奏波



自分から逃げるな、自分に負けるな、自分に自信をもち限界を超えるまで立ち向かえ。そして、自分たちが目指す夢は「県大会優勝」。僕たちは今、みんなで走り出しています。

柔道部

●部長 馬淵剛希/大平日向葵



私たちは、ジュニア油絵展へ全員が出品できるように、一人一人が真剣に筆を動かしています。入賞できるように、これからも頑張ってキャンパスと向き合っていきます。

美術部

●部長 杉内かりん



部員16人で県大会に出場するという目標に向けて日々のトレーニングを大切にしています。そして、不破中の中で一番楽しく、明るい部活にしていきたいと思っています。

水泳部

●部長 駒形美里



私たちは、県大会金賞を目標にしています。吹奏楽は、毎日の練習の積み重ねで上手になることができます。一日一日を大切に日々の練習に取り組んでいきます。

吹奏楽部

●部長 大庭章加



僕たちは、検定合格を目指して、毎回の練習を頑張っています。みんなで協力して楽しい部活動を創り上げていきます。

パソコン部

●部長 安藤直海



僕たちの目標は、一戦必勝で、去年の先輩が果たせなかった東海で一勝し、全国へ行くことです。日々の練習を大切に、来年勝てるように頑張ります。

野球部

●部長 水野聡汰



中体連の目標は、「全員県大会出場」です。この目標達成のために、技術力を向上させ、声を大切に全員で戦い、県大会出場を目指して頑張ります。

陸上部

●部長 牛ノ瀨幸輝/渡辺恵未



今年の新人戦では県大会に出場できましたが、県で勝ち抜こうと思うと今のままでは課題があります。もっと厳しさを求め合って県で勝ち抜きたいです。

サッカー部

●部長 廣瀬沙英哉



私たちは、チームワークを大切に楽しくプレーすることを心がけています。元気な声を出し、お互いに励まし合って日々練習中です。県大会優勝目指して頑張ります。

ソフトボール部

●部長 細野摩な



来年度の目標は、試合に出て一勝することです。練習では、一生懸命取り組み、声をかけ合い高め合っていきます。全員で一日一日強くなっていききたいと思います。

男子バレーボール部

●部長 宮崎大輝



目標は、全国大会一勝です。どのチームも真似できないバレーで勝ち上がり、最後の夏に結果が出せるよう部員7人全力で頑張っていきます。

女子バレーボール部

●部長 重綱美宇

夢中! 熱中! 我らが部活

垂井町立不破中学校



来年度の目標、それは県大会ベスト8です。簡単なことではありませんが、日々の練習を大切に、自分たちの限界を超えられるよう頑張ります。

男子ソフトテニス部

●部長 坂口昂輝



感謝の気持ちを大切に、日々の練習に取り組んでいます。大人数であることを生かして、練習中の声や応援の声を全員で出し、活気ある部活を目指しています。

女子ソフトテニス部

●部長 中西波奈



中体連で県大会に出場できるよう、基礎を大切に毎日取り組んでいます。短い練習時間を最大限活用し、個人の強さ、チームの強さの両方を磨いていきます。

ハンドボール部

●部長 正岡根生



総勢50人と人数がとても多いけれど、男女ともに「中体連、東海大会出場」が果たせるよう、一日一日の練習でメリハリをつけ、楽しみながら頑張っていきます。

バドミントン部

●部長 笹俣智哉/伊東奈桜

「向き合い、理解し、応援しよう」

地域・学校紹介

多治見市の中心部に位置する本校の校区内は、大型店舗が林立する一方で、昔からの商店街があり、また、新しい住宅団地の側には、国宝の虎溪山永保寺、多治見修道院があるなど、新しいものと歴史あるものが混在する色々な要素を持った地域です。

一四〇年以上の歴史がある本校は、児童数が約八〇〇名と県内でも大きな学校ですが、まとまりが良く、子どもたちは明るく素直で、学習にも諸活動にも熱心に取り組んでいます。

PTA活動の重点

① 親子での活動を増やしています。

本校のPTA活動の最大のイベントは「親子ふれあい行事」です。毎年近隣のホールにてプロの演奏やダンスパフォーマンスの鑑賞、四年生の合唱・合奏の披露のほか、保護者と先生によるコーラスを行います。

ています。

意識的に親子での参加を促すような活動内容にしていますが、親子で共通の時間を創出することで、向き合うきっかけになり、理解につながり、それがお互いへの応援に変わっていくばと考えています。

② 通学路の安全のため、ボランティアと連携して活動しています。

校区内は、車の往来がとて多い地域で、昔から通学路の安全確保は、本校の重要な課題です。こうした中、校区毎に設置された市民団体が母体となり、平成十六年に見守りボランティア「セイフティ精華」が発足しました。以来毎日、登下校時に危険箇所にて、児童が安全に通行できるように、当番の保護者と共に交通誘導していただいています。また、毎年、低学年に交通指導もしていただいています。こうした活動により平成二十四年には岐阜県防犯協会から表彰を受けられました。お陰様で大きな事故はなく、安全に子どもたちが登下校できています。

おわりに

共働き世帯が中心となってきたり、家庭環境の変化の中で、委

このコーラスは、ハーモニーを奏する訳ではありませんが、演奏や振付を保護者や先生で行い、事前練習を何度も行うなど、本気モードです。今年はサプライズ演出もあり、大変盛り上がりました。一〇〇名以上の大人達が一生懸命かつ楽しそうに歌い踊る姿を見て、子どもたちも大変喜んでくれます。終了後は感極まって涙を流す保護者もいます。大人が心から楽しんでる姿を子ども達に見てもらうことが重要だと思っています。

その他、今年度は、地場産業であるタイル製造会社の協力で、「知ろう！作ろう！多治見のタイル」と称してコースターやフォトフレームを小さなタイルで飾る工作&タイルにまつわるクイズを行いました。五十組以上の親子に参加いただき、大好評でした。また、防災意識の啓発の一環として「親子でおにぎりの日」、委員会の活動では、修繕として親子でペンキ塗り、卒業を控えた六年生親子による奉仕活動を予定し

員会の統合や会議の回数削減、開催日の考慮など、PTA活動も委員の負担を減らす方向で変化をさせていきます。上述のセイフティ精華のほか、本校の図書や読み聞かせの「エ

ルマーの会」、「げんたろうの会」といったボランティア活動が、委員の納得感と主体性のバランスの取れた今後のPTA活動のヒントになるうかと思えます。



タイル工作



ペンキ塗り



親子ふれあい行事



保護者の見守り



セイフティ精華

精華小学校の広報誌の名称です。
読めますか？「いつもあかるく えがおわずれず」

精華っ子